

Oracle® Hyperion Enterprise Performance Management Workspace

User's Guide

リリース 11.1.2.3

EPM Workspace User's Guide, 11.1.2.3

Copyright © 1989, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	5
第 1 章 EPM Workspace の使用方法	7
EPM System および Enterprise Performance Management について	8
EPM Workspace について	8
EPM Workspace の使用準備	9
配置ワークフロー	11
ナビゲートからモジュールへのアクセス	11
EPM Workspace 機能	12
タスクを実行するために使用するモジュール	13
ナビゲートからアイテムをアクセス	14
ユーザー・タイプおよびモジュール・タスク	14
EPM Workspace ユーザー・インタフェース	14
Reporting and Analysis Framework リポジトリ	16
EPM Workspace へのログオン	16
プリファレンスの設定	17
タスクの開始	17
ドキュメントの作成	18
ドキュメントのデータ・ソースの選択	18
ドキュメントまたは URL を開く、印刷する	19
ファイルのプロパティの設定とファイルの移動	19
ファイル名の変更	20
お気に入りに対するドキュメントの追加と削除	20
エクスプローラの使用	21
カタログの使用	21
スケジュールの使用	22
「アイテムを開く」の使用	22
ネイティブ・ディレクトリ・パスワードの変更	22
EPM Workspace での URL の使用	23
URL を開く	23
新規ウィンドウで URL を開く	23
URL の更新	24

Smart View の使用方法	24
EPM Workspace の単一インスタンス	25
単一インスタンスの動作を上書きする URL パラメータ	26
EPM Workspace のカスタマイズ	26
ダッシュボードからの EPM Workspace のタブとしての EPM Workspace オ ブジェクトの起動	27
Oracle User Productivity Kit の使用	30
タイトル・バー領域	31
ツールバー	31
EPM Workspace ツールバー	31
メニュー	32
「ナビゲート」メニュー	32
「ファイル」メニュー	35
「編集」メニュー	37
「表示」メニュー	37
「お気に入り」メニュー	38
「ツール」メニュー	39
「ヘルプ」メニュー	39
第 2 章 全般プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ	41
プリファレンスの設定	41
全般プリファレンスの設定	42
第 3 章 アプリケーションの起動	45
Oracle Hyperion アプリケーションの起動	45
第 4 章 Oracle BI EE の使用方法	47
概要	47
EPM Workspace から Oracle BI EE へのアクセス	47
Oracle BI EE カタログ	48
Oracle BI EE ホーム・ページ	48
Oracle BI EE インタラクティブ・ダッシュボード	48
Oracle BI EE プリファレンスの設定	49
付録 A. アクセシビリティ	51
用語集	53
索引	79

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

1

EPM Workspaceの使用方法

この章の内容

EPM System および Enterprise Performance Management について	8
EPM Workspace について	8
EPM Workspace の使用準備	9
配置ワークフロー	11
ナビゲートからモジュールへのアクセス.....	11
EPM Workspace 機能.....	12
ユーザー・タイプおよびモジュール・タスク	14
EPM Workspace ユーザー・インターフェース	14
Reporting and Analysis Framework リポジトリ	16
EPM Workspace へのログオン	16
プリファレンスの設定.....	17
タスクの開始.....	17
ドキュメントの作成.....	18
ドキュメントまたは URL を開く、印刷する	19
ファイルのプロパティの設定とファイルの移動.....	19
ファイル名の変更	20
お気に入りに対するドキュメントの追加と削除.....	20
エクスプローラの使用法.....	21
カタログの使用	21
スケジュールの使用法.....	22
「アイテムを開く」の使用法.....	22
ネイティブ・ディレクトリ・パスワードの変更.....	22
EPM Workspace での URL の使用法.....	23
Smart View の使用法.....	24
EPM Workspace の単一インスタンス.....	25
EPM Workspace のカスタマイズ.....	26
Oracle User Productivity Kit の使用	30
タイトル・バー領域	31
ツールバー.....	31
メニュー.....	32

EPM System および Enterprise Performance Management について

Enterprise Performance Management (EPM)システムは次の製品から構成されます:

注: サポートされている製品の詳細は、[EPM Workspace について](#)を参照してください。

- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace は、他に何もインストールする必要のないゼロフットプリントのクライアントで、Oracle Hyperion Reporting and Analysis の Studio 製品、財務アプリケーションおよび Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 製品を使用して作成したコンテンツを表示および操作するためのユーザー・インタフェースを提供します。
- Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework - クエリーや分析などの管理レポート機能を 1 つの環境に統合します
 - Oracle Hyperion Foundation Services - インストールおよび構成を簡易化するために使用します。また、メタデータ管理機能があり、Microsoft Office の共通インタフェースをサポートします
- Oracle Hyperion Application Builder for .NET - 集約されたプランニング、集計およびスコアカードのアプリケーションです

EPM Workspace について

EPM Workspace は、Oracle Hyperion および Oracle Hyperion 以外のすべてのコンテンツにアクセスするために使用する Web ユーザー・インタフェースです。Oracle Hyperion のコンテンツには、Reporting and Analysis Framework および Oracle の Hyperion 財務アプリケーションが含まれます。Oracle Essbase は、ビジネス・インテリジェンス・プラットフォームと Oracle の Hyperion 財務アプリケーション、Oracle Hyperion Performance Scorecard および Oracle BI EE 製品を統合する総合的な EPM システムの一部です。

EPM Workspace は、単一の統合環境で広範囲のデータ・ソースに対する管理レポート、クエリー、および分析機能を提供するモジュール形式のビジネス・インテリジェンス・プラットフォームです。

EPM Workspace では、次のコンテンツにアクセスできます:

- Oracle Hyperion Financial Reporting - Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management、Oracle BI アンサー、Oracle BI インタラクティブ・ダッシュボード、Oracle BI デリバー、および Oracle Business Intelligence Publisher を含む任意のデータ・ソースから、スケジュール済またはオン・デマンド高度フォーマット済の財務レポートとオペレーショナル・レポートを作成できます
- Oracle Hyperion Interactive Reporting - 任意の ODBC データ・ソースに対して、アド・ホック・リレーショナル・クエリー、セルフサービス・レポートおよびダッシュボードを作成できます

Interactive Reporting データ・モデルを置き換えるには、Oracle Hyperion インパクト・マネージャ・サービスモジュールを使用します。

- Oracle Hyperion SQR Production Reporting - 大量の企業全体のプロダクション・レポートを作成できます
- Oracle Hyperion Web Analysis - 対話式アド・ホック分析、プレゼンテーションおよび、多次元データのレポートを作成できます
- Performance Scorecard - Web ベースのソリューションで、組織は目標を設定したり、スコアカードを使用してビジネス・パフォーマンスの測定や監視を行ったりできます
- Financial Management および Planning - アプリケーションタスクの統合およびプランニングに使用します。
- Profitability and Cost Management - 部門の収益性の計算に必要な原価と収益の配分を管理できます
- Oracle Hyperion Financial Data Quality Management ERP Integration Adapter for Oracle Applications - Oracle Hyperion Financial Data Quality Management のモジュールであり、Enterprise Resource Planning (ERP) ソース・システムのデータとメタデータを、Enterprise Performance Management (EPM) ターゲット・アプリケーションに統合します。
- Oracle BI アンサー - 純粋な Web アーキテクチャにおける真のアド・ホック機能をエンド・ユーザーに提供します。
- Oracle BI インタラクティブ・ダッシュボード - Oracle BI インタラクティブ・ダッシュボードは、アクション可能で各自の役割と身分をベースに動的にカスタマイズされた情報の直感的で対話式的アクセスを提供します
- Oracle BI デリバー - ビジネス・アクティビティに関する監視機能および電子メール、ダッシュボード、モバイル・デバイスなどの複数のチャンネルを使用してユーザーに通知できるアラート機能を提供します。
- BI Publisher - BI Publisher(旧 XML Publisher)は、複雑な分散環境に効率的でスケラブルなレポート作成ソリューションを提供します
- Oracle Hyperion Disclosure Management - 監督官庁に提出するインスタンス・ドキュメント(例: SEC に提出する 10K または 10Q)の作成、編集および提出を支援するツールセットです。
- Oracle Hyperion Financial Close Management - 企業が決算期間の相互依存アクティビティを定義、実行およびレポートするのに役立ちます。

注： Studio は、機能豊富なオーサリング環境を持つ Java または Windows コンポーネントを指します。EPM Workspace は、製品のユーザー・シン・クライアント(UTC)または共通ユーザー・インタフェースを指します。

EPM Workspace の使用準備

Oracle Enterprise Performance Management Workspace を使用する前に、ドキュメント・セットについてよく理解してください。

注： システム要件については、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックスを確認してください。マトリックスは http://www.oracle.com/technology/software/products/ias/files/fusion_certification.html(Business Intelligence 内)にあります。

補足情報:

- ブラウザ情報 - Oracle Enterprise Performance Management System Security Configuration Guide を参照してください。
- EPM Workspace の URL とドメイン
- ユーザー・アカウント - 割り当てられているユーザー名とパスワード。システム管理者に確認してください。
- ログオン情報 - 16 ページの「EPM Workspace へのログオン」を参照してください。
- アクセス権 - 31 ページの「ツールバー」を参照してください。
- プリファレンス - 17 ページの「プリファレンスの設定」を参照してください。
- データベース情報

Oracle Hyperion Financial Reporting を使用する場合は、コンピュータに Adobe Acrobat Reader がインストールされている必要があります。PDF でレポートを表示する前に、PDF ライター(Adobe Acrobat Distiller、GNU Ghostscript または AFPL Ghostscript)を印刷サーバーとともにインストールしておく必要があります。PDF ビューアが使用できない場合は、レポート名のみ表示されます。PDF ファイルとテキスト・ファイルの印刷の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide を参照してください。

▶ EPM Workspace で PDF レポートを表示するために Microsoft Internet Explorer(IE) を使用可能にするには、次の手順に従います。

- 1 Internet Explorer を開きます。
- 2 「ツール」の「インターネットオプション」を選択します。
- 3 「インターネットオプション」ダイアログ・ボックスで、「全般」タブを選択し、「インターネット一時ファイル」の「設定」を選択します。
- 4 「設定」ダイアログ・ボックスで、「保存しているページの新しいバージョンの確認」の「ページを表示するごとに確認する」を選択します。

注： EPM Workspace を Web ポップアップ・ブロックの例外に追加することをお勧めします。Web 上で EPM Workspace タスク(データのロードなど)を実行すると、ステータス・ウィンドウがポップアップし、タスク・ステータスが表示されます。コンピュータでポップアップ・ブロックを使用可能にしている場合は、ステータス・ウィンドウが表示されません。

注： データベース接続に初めてアクセスするときに、ログオンを求めるメッセージが表示される場合があります。このメッセージは、Web アプリケーションへのログオンに使用したユーザー名およびパスワードがデータベース接続のユーザー名およびパスワードと異なる場合に表示されます。必要なデータベース接続のログオン情報については、管理者に確認してください。

Internet Explorer を使用する場合、ステータス情報は、EPM Workspace の操作中にブラウザのステータス・バーに表示されます。Firefox を使用する場合、ステータス・バーはデフォルトでは使用不可になっています。

- ▶ Firefox のステータス・バーを使用可能にして詳しい進行状況を確認するには、次の手順に従います。
- 1 「ツール」の「オプション」を選択します。
- 2 「コンテンツ」を選択します。
- 3 「詳細設定」を選択します。
- 4 「JavaScript の詳細設定」ダイアログ・ボックスで「ステータスバーのテキストを変更する」を選択します。
- 5 「OK」をクリックします。

配置ワークフロー

配置タスクの情報については、Hyperion Enterprise Performance Management の配置に関するガイドラインを参照してください。

ナビゲートからモジュールへのアクセス

EPM Workspace の「ナビゲート」メニューから次にアクセスします。

- 「エクスプローラ」で、ファイルの整理、検索またはアクセス権の割当てを行います。「エクスプローラ」を選択すると、ビュー・ペインにフォルダが表示され、コンテンツ・ペインにファイルとフォルダが表示されます。エクスプローラは、Reporting and Analysis Framework がインストールおよび構成されている場合に表示されます。
- 「アプリケーション」により、Financial Management、Planning、Performance Scorecard、Profitability and Cost Management および Oracle Business Intelligence の各アプリケーションにアクセスできます。「アプリケーション」は、ユーザーがアクセス権を持ち、アプリケーションが利用可能な場合にのみ表示されます。
- Workspace ページから、マイ Workspace ページおよび共有 Workspace ページにアクセスします。マイ Workspace ページは、ユーザーがアクセス可能ないずれかのフォルダに保管できます。マイ Workspace ページはお気に入りフォルダに類似しています。ユーザーは、リポジトリ内を移動しなくても、1つの場所からすべての個人用 Workspace ページにアクセスできます。共有 Workspace ページは、許可されたユーザーがエクスプローラ・モジュールからアクセスでき

るシステム・フォルダに保管されます。このフォルダにアクセスできるユーザーは、組織内の残るユーザーに個人用ページを移行するために、エクスプローラ・モジュール内で個人用ページを手動で移動できます。Workspace ページは、Reporting and Analysis Framework がインストールおよび構成されている場合に表示されます。

- 「管理」により、ユーザー、グループ、ユーザー・プリファレンス、役割、スマート・カット、エクスプローラ注釈および認証メソッドを管理できます。
- 「スケジュール」により、ジョブの管理、自動処理のバッチおよびイベントのスケジュールを行うことができます。
- インパクト・マネージャにより、データベース構造、データベース接続、または外部データ・ソースへのリンクが変更されたときに、Interactive Reporting ドキュメントを更新できます。
- 「アイテムを開く」により、EPM Workspace で現在開いているアーティファクトに簡単にアクセスできます。

また EPM Workspace は、Financial Reporting、Interactive Reporting、Production Reporting および Web Analysis などの各 Reporting and Analysis Framework のシンクライアント製品とともにインストールできます。これらの製品は、ドキュメントの作成、ドキュメント要素の変更のために使用します。インストールされたこれらのコンポーネントにより、使用可能な機能が決まります。たとえば、Web Analysis ドキュメントを表示するには、Web Analysis をインストールする必要があります。これらのモジュールで実行するタスクについては、[14 ページの「ユーザー・タイプおよびモジュール・タスク」](#)を参照してください。

EPM Workspace 機能

サブトピック

- [タスクを実行するために使用するモジュール](#)
- [ナビゲートからアイテムをアクセス](#)

EPM Workspace には、EPM Workspace にインストールおよび構成されている内容に基づき次のタスクがあります。

- ドキュメントおよびダッシュボードの表示
- 次のアプリケーション製品へのアクセス:
 - Financial Management - EPM Workspace からの Financial Management アプリケーションの使用の詳細は Oracle Hyperion Financial Management User's Guide を参照してください。
 - Performance Scorecard - EPM Workspace からの Performance Scorecard の詳細は Oracle Hyperion Performance Scorecard User's Guide を参照してください。
 - Planning アプリケーション - EPM Workspace からの Planning アプリケーションの詳細は Oracle Hyperion Planning User's Guide を参照してください。
 - Oracle Hyperion Financial Data Quality Management ERP Integration Adapter for Oracle Applications - Oracle Hyperion Financial Data Quality Management のモ

ジュールであり、Enterprise Resource Planning (ERP) ソース・システムのデータとメタデータを、Enterprise Performance Management (EPM) ターゲット・アプリケーションに統合します。

- Oracle Business Intelligence - Oracle Business Intelligence アンサー、Oracle Business Intelligence インタラクティブ・ダッシュボード、Oracle Business Intelligence デリバーおよび BI Publisher が搭載されています。Oracle BI EE 製品の詳細は Oracle Business Intelligence 新機能ガイドのリリース 10.1.3.4 ドキュメントを参照してください。Oracle BI Publisher の詳細は Oracle Business Intelligence Publisher User's Guide を参照してください。
- Profitability and Cost Management - Profitability and Cost Management の詳細は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management User's Guide を参照してください。
- Reporting and Analysis Framework 製品には、次が含まれます:
 - レポートの実行または通知の作成を自動化するためのバッチ、ジョブまたはイベントのスケジュール設定。Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。
 - Web Analysis および Interactive Reporting のドキュメント、ブックまたはバッチの作成。Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。
 - EPM Workspace のカスタマイズによる、開始ページ(ホーム・ページとも呼ぶ)、個人用ページ、お気に入りおよび Workspace ページを使用した情報配布の管理。個人用ページおよび Workspace ページについては、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。

EPM Workspace からメニュー、ツールバー・ボタン、および「ナビゲート」のアイテムを使用してタスクを実行します。以下の条件に基づき、システムの使用に応じてメニューとツールバー・ボタンが更新されます。

- 管理者によって与えられた役割。役割は、ビュー・ペインおよびツールバーに表示されるモジュールを決定します。
- 使用している製品および実行しているタスク。管理メニュー・アイテムを使用すると、メニューおよびツールバー・アイコンには管理関係タスクに関連するタスクが含まれます。エクスプローラを使用するとメニューにはファイル・タスクが含まれます。

タスクを実行するために使用するモジュール

EPM Workspace を使用して次のユーザー・タスクを実行します。

- 「ナビゲート」メニュー - 「エクスプローラ」、「Workspace ページ」、「アプリケーション」、「管理」、「スケジュール」、「インパクト・マネージャ」、および「アイテムを開く」にアクセスします。
- アプリケーション - Financial Management、Planning、Oracle Business Intelligence アプリケーション、Profitability and Cost Management および Performance Scorecard などのアプリケーションにアクセスし、表示します。
- Reporting and Analysis Framework の機能:

- Workspace ページ - Oracle および Oracle 以外のソースからコンテンツを集約します。Workspace ページは、ドキュメント、URL、および他のコンテンツ・タイプを含む複数のソースのコンテンツで構成されるページです。
- スケジュール - バッチ、ジョブ、およびイベントなどのドキュメントを自動的に実行して管理

注： 管理およびインパクト・マネージャ・モジュールは、管理者のみが使用します。Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework Administrator's Guide を参照してください。エクスプローラ、Workspace ページおよびスケジュールの各モジュールの詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide に記載されています。

- アイテムを開く - EPM Workspace で開いたすべてのドキュメントまたはアイテムを表示します。

ナビゲートからアイテムをアクセス

次のいずれかのアクションを行います。

- 「ナビゲート」 から<アイテム名>をクリックします。
- ツールバーから「エクスプローラ」を選択します。「エクスプローラ」は、「ナビゲート」メニューのツールバーで選択可能な唯一のアイテムです。

イタリックの<アイテム名>は「エクスプローラ」、「アプリケーション」、「Workspace ページ」、「管理」、「スケジュール」、「インパクト・マネージャ」、またはアイテムを開くで置き換わります。

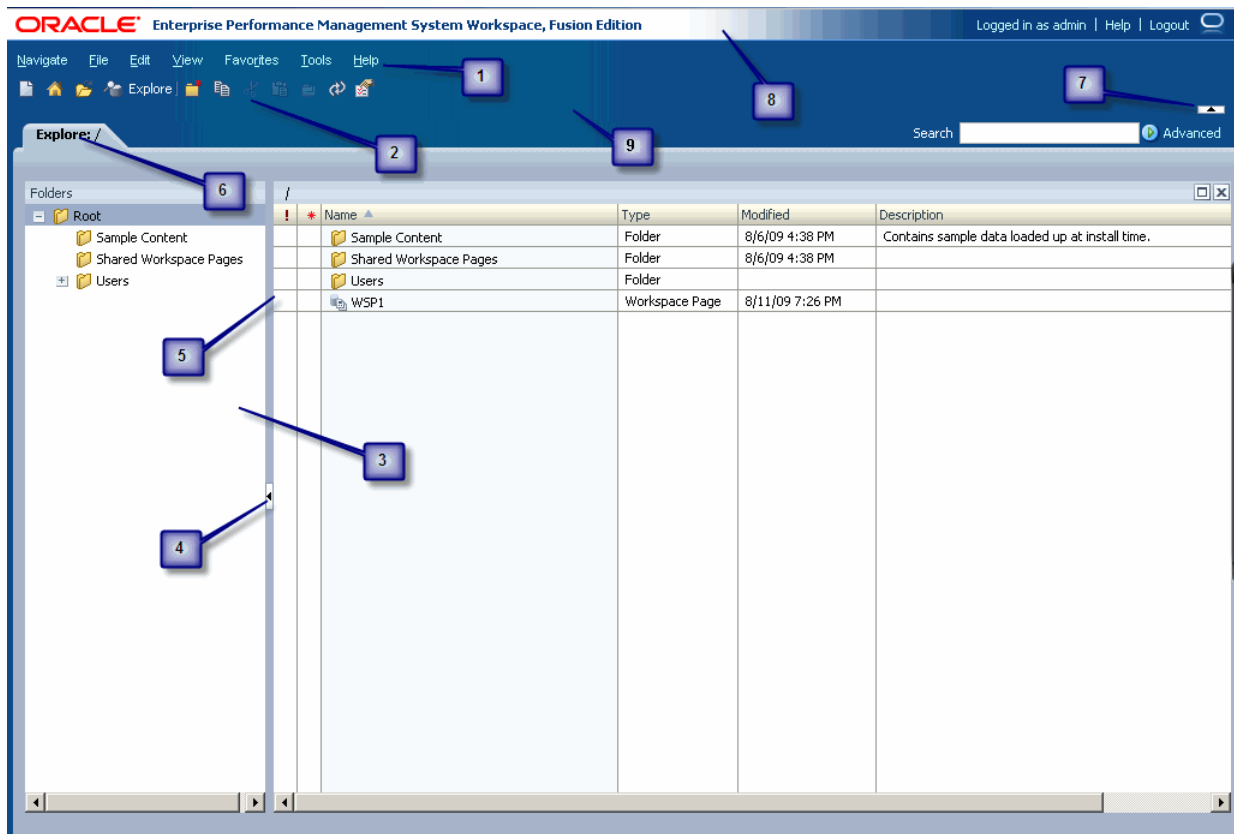
ユーザー・タイプおよびモジュール・タスク

EPM Workspace で使用できる様々なユーザーの完全なリストは、Oracle Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide を参照してください。

EPM Workspace で使用できるタスクは、システム管理者がユーザーに割り当てた役割と権限に依存します。役割の詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide を参照してください。

EPM Workspace ユーザー・インターフェース

ログオンすると、デフォルトの EPM Workspace 開始ページまたはホーム・ページが表示されます。ホーム・ページは、Reporting and Analysis Framework がインストールおよび構成されている場合に使用可能です。デフォルトは「プリファレンス」ダイアログ・ボックスから設定されています(17 ページの「プリファレンスの設定」)。



EPM Workspace ユーザー・インターフェースには次の領域が含まれます。

1. メニュー・バー - タスクおよびモジュールを整理するコマンドおよびサブ・コマンド(32 ページの「メニュー」を参照)
2. 標準ツールバー - タスクを行うボタン。31 ページの「ツールバー」を参照してください。
3. ビュー・ペイン - パネル間を移動し(各パネルには、特定の用途と対応するコントロールがある)、ドキュメントおよびモジュールのリストを表示できるボタンを提供する領域(このペインを非表示にすると、EPM Workspace を使用するコンテンツ・フレームが広がります。表示および非表示を切り替えるには「表示」を選択して「ビュー・ペイン」を選択します)。
4. ビュー・ペインまたはコンテンツ領域アジャスタ - ビュー・ペインおよびコンテンツ領域のサイズを調節する設定。
5. コンテンツ領域 - アクティブ・モジュール、ドキュメント、タスク、またはファイルを表示する領域。
6. ドキュメント・タブ・バー - 現在のモジュール固有の情報バー(複数のドキュメントが開いている場合、現在のドキュメント・タブが強調表示されます)。
7. マストヘッド領域アジャスタ - メニュー・バーおよびツールバー領域の表示と非表示を選択します。
8. タイトル・バー - 製品名、ログインしているユーザー名、およびヘルプとログアウト・のリンクが表示されます。
9. マストヘッド - マストヘッド、メニュー・バーおよびツールバーのボタンを提供する領域。表示と非表示を切り替えるには、「表示」>「マストヘッドの表示」を選択します。

Reporting and Analysis Framework リポジトリ

注： これは、Reporting and Analysis Framework をインストールし構成している場合に使用可能です。

リポジトリにはエクスプローラを使用してアクセスします。これは、ドキュメントおよびファイルの保管、アクセス、および共有に使用します。ドキュメント、ファイルおよびフォルダなどのアイテムには、ドキュメントの参照または検索、フォルダの登録、およびダッシュボードの使用など様々な方法でアクセスできます。たとえば、リポジトリにドキュメントをインポートすることにより、他のユーザーがドキュメント、ファイルおよびフォルダを使用できるようになります。エクスプローラの詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。

ドキュメントは、情報およびデータを定義済フォーマットで表示します。ジョブおよびバッチを使用して自動的にドキュメントを生成できます。ジョブとバッチは自由に行うか自動的に実行するようスケジュールできます。

注： ユーザーのファイルのアクセス権がどのリポジトリ・アイテムを表示、変更、実行、および削除できるかを決定します。

EPM Workspace へのログオン

EPM Workspace は管理者が提供する URL を介するか Oracle アプリケーション・リンクを介す 2 つの方法でアクセスできます。

注： EPM Workspace にログインすると、ヘルプ・メニューにアクセスできます。

注： Oracle アプリケーション・リンクを介したアクセスには、シングル・サインオンが可能になっている必要があります。

▶ EPM Workspace セッションを開始するには、次の手順に従います。

- 1 ウェブ・ブラウザから EPM Workspace ウェブ・ページへ移動します。
- 2 ユーザー名とパスワードを入力します。

ヒント： ユーザー名とパスワードは大文字/小文字の区別がある可能性があります。ユーザー名とパスワードが大文字/小文字を区別するか調べるには、認証ソース・ドキュメンテーションを参照してください。

- 3 「ログオン」をクリックします。

ユーザーの開始ページまたはホーム・ページが表示されます。開始ページまたはホーム・ページの設定の詳細は、[第 2 章「全般プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ」](#) を参照してください。

プリファレンスの設定

デザイナーは、EPM Workspace のユーザー・インタフェース、エクスプローラ、Reporting and Analysis 製品、Oracle Business Intelligence 製品およびユーザー・パスワード変更の認証の全体的な外観のデフォルト値を設定できます。エクスプローラ、Interactive Reporting および Production Reporting 製品のプリファレンス設定については、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide に記載されています。Web Analysis のプリファレンス設定については、Oracle Hyperion Web Analysis Studio User's Guide に記載されています。Financial Reporting のプリファレンス設定については、Oracle Hyperion Financial Reporting Studio User's Guide に記載されています。Planning のエンド・ユーザーのプリファレンス設定の詳細は、Oracle Hyperion Planning User's Guide を参照してください。管理者およびアプリケーションのプリファレンスの詳細は、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。Financial Management のプリファレンスは EPM Workspace から設定します。Oracle Hyperion Financial Management User's Guide を参照してください。EPM Workspace の Oracle Business Intelligence 製品のプリファレンスは、EPM Workspace で設定します。コンテンツ領域のデフォルト起動オプションを設定できます。一部の設定はメニュー・オプションを使用して上書きできます。第 2 章「全般プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ」を参照してください。

注： ユーザーが自分自身で更新できない電子メール・アドレスは、システム管理者が設定する電子メール・アドレスです。詳細は、42 ページの「全般プリファレンスの設定」を参照してください。

タスクの開始

EPM Workspace のほとんどのタスクは同じ方法で開始します。

注： 一部のタスクは、ツールバー、メニューおよびショートカット・メニューから実行することもできます。EPM Workspace 固有のツールバー、メニューおよびショートカット・メニューのリストは、31 ページの「ツールバー」を参照してください。製品固有のツールバーおよびメニューの詳細は、各製品ドキュメントを参照してください。

▶ タスクを開始するには、次の手順に従います。

- 1 「ナビゲート」から「エクスプローラ」、「アプリケーション」、「Workspace ページ」、「管理」、「スケジュール」、「インパクト・マネージャ」または「アイテムを開く」を選択します。
- 2 いずれかのメニューからタスクを選択します。たとえば、「ファイル」メニューから「新規」を選択し、「Workspace ページ」を選択します。

ドキュメントの作成

EPM Workspace では、新規ドキュメント・ウィザードを使用して、Web Analysis ドキュメントや Interactive Reporting ドキュメント、Financial Reporting ブックやバッチまたは Workspace ページを作成できます。

注： 次の手順でエクスプローラと Reporting and Analysis 製品を使用するには、Reporting and Analysis Framework をインストールする必要があります。

▶ Web Analysis ドキュメントや Interactive Reporting ドキュメント、Financial Reporting ブックやバッチまたは Workspace ページを作成するには、次の手順に従います。

1 「ファイル」の「新規」を選択し、「ドキュメント」を選択します。

2 次のいずれかのオプションを選択します：

- Interactive Reporting ドキュメントを作成
- Web Analysis ドキュメントを作成
- レポートを収集してブックを作成
- スケジュールを設定するレポートのバッチを作成
- Workspace ページを作成

レポートを収集してブックを作成する方法、およびスケジュールを設定するレポートのバッチを作成する方法の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace User's Guide を参照してください。Interactive Reporting ドキュメントの作成の詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。Web Analysis の作成の詳細は、Oracle Hyperion Web Analysis Studio User's Guide を参照してください。

▶ Financial Reporting バッチを作成するには、次の手順に従います：

1 「ファイル」、「スケジュール設定するバッチ」の順に選択します。

2 次のいずれかのオプションを選択します：

スケジュールのためのバッチ・レポートの詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace User's Guide を参照してください。

ドキュメントのデータ・ソースの選択

ドキュメントを作成するには、データ・ソースを指定する必要があります。データ・ソースによってドキュメント・タイプが決まります。

- Web Analysis ドキュメントを作成するには、Web Analysis データベース接続を指定します。
- 既存のドキュメントをベースにした Interactive Reporting ドキュメントを作成するには、既存のドキュメントを指定します。

ドキュメントまたは URL を開く、印刷する

注： 次の手順でエクスプローラを使用するには、Reporting and Analysis Framework をインストールする必要があります。

▶ ドキュメントを開くには、次の手順に従います：

- 1 「ファイル」の「開く」を選択し、「ドキュメント」を選択します。
「開く」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 ドキュメントを選択します。

注： 開いているドキュメントのリストは、「ナビゲート」メニューの「アイテムを開く」オプションを使用するか、EPM Workspace の上部にあるタブを使用して確認できます。開いているドキュメントを切り替えることができます。

▶ URL を開くには、次の手順に従います。

- 1 「ファイル」の「開く」を選択し、「URL」を選択します。
- 2 URL を入力します。
- 3 「OK」を選択します。

注： 次の手順は、Financial Reporting、Web Analysis または Production Reporting ドキュメントにのみ適用されます。

▶ ドキュメントを印刷するには、次の手順に従います。

- 1 「ファイル」の「開く」を選択し、「ドキュメント」を選択します。
- 2 ドキュメント(たとえば Financial Reporting ドキュメント)を開きます。

注： ドキュメントを HTML または PDF として開く必要がある場合があります。

- 3 「ファイル」の「印刷」を選択し、「HTML」または「PDF」を選択します。「」「」

ファイルのプロパティの設定とファイルの移動

注： エクスプローラを使用するには、Reporting and Analysis Framework をインストールする必要があります。

▶ ファイルのプロパティを設定するには、次の手順に従います：

- 1 エクスプローラでドキュメントを開かずに選択します。

2 「ファイル」を選択し、「プロパティ」を選択します。

「プロパティ」ダイアログ・ボックスで、「全般プロパティ」オプションがデフォルトで選択されています。

ファイル名、説明およびオブジェクトの所有者を変更できます。オブジェクトの所有権を変更するには、そのオブジェクトに対するフル・コントロール権限が必要です。「権限」などのその他のプロパティ設定の詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。

▶ エクスプローラでファイルまたはフォルダを移動するには、次の手順に従います。

- 1 エクスプローラでドキュメントまたはフォルダを選択します。
- 2 「編集」、次に「切り取り」または「コピー」を選択します。エクスプローラでのコピーの詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。
- 3 リポジトリの場所を選択し、「編集」の「貼付け」を選択します。

ファイル名の変更

▶ ファイル名を変更するには、次の手順に従います。

- 1 エクスプローラでドキュメントまたはフォルダを選択します。
- 2 「編集」を選択し、「名前変更」を選択します。
- 3 名前を入力します。
- 4 「保存」を選択します。

お気に入りに対するドキュメントの追加と削除

注： EPM Workspace で「お気に入り」メニューを表示するには、Reporting and Analysis Framework をインストールする必要があります。

▶ ドキュメントまたはフォルダをお気に入りに追加するには、次の手順に従います。

- 1 エクスプローラでドキュメントまたはフォルダを選択します。
- 2 「お気に入り」を選択し、「お気に入りに追加」を選択します。
- 3 「お気に入り」を選択します。

追加したドキュメントまたはフォルダがメニュー・オプションとして表示されます。

▶ ドキュメントまたはフォルダをお気に入りから除去するには、次の手順に従います。

- 1 「お気に入り」を選択し、「お気に入りの管理」を選択します。
- 2 「表示」の選択を解除するか、「削除」を選択します。

▶ ショートカットを作成するには、次の手順に従います:

- 1 「エクスプローラ」でドキュメントを選択します。
- 2 ドキュメントを右クリックし、「ショートカットの作成」を選択します。
- 3 「全般プロパティ」ダイアログ・ボックスに必要な情報を入力し、「OK」を選択します。

手順については、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。

エクスプローラの使用法

注: EPM Workspace でエクスプローラを表示するには、Reporting and Analysis Framework をインストールして構成する必要があります。エクスプローラの使用法の詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。

「エクスプローラ」で、ファイルの整理、検索またはアクセス権の割当てを行います。「エクスプローラ」を選択すると、ビュー・ペインにフォルダが表示され、コンテンツ・ペインにファイルとフォルダが表示されます。

エクスプローラの機能:

- フォルダ・ツリー - フォルダのナビゲート
- ファイル・プロパティの表示 - タイプ、所有者、作成日、アクセス権、変更日、説明などのファイル情報の表示
- ドキュメントの起動 - 新規のタブまたはウィンドウでドキュメントを開く

カタログの使用

カタログには、ダッシュボードや KPI などの、Oracle BI EE アプリケーションを使用して作成するオブジェクト、および統合されている場合は Oracle Business Intelligence Publisher オブジェクト(データ・モデル、レポート・スタイル・テンプレートとサブ・テンプレートおよびスケジュール)が格納されます。これらのオブジェクトの詳細は、Oracle Business Intelligence Publisher User's Guide および Oracle Business Intelligence Answers User's Guide を参照してください。ユーザーは独自のフォルダ(My Folders)を持ち、作成したオブジェクトを保存します。これらのオブジェクトに他のユーザーはアクセスできません。ユーザーは自身の My Folders にサブフォルダを追加し、自身にとって最も論理的な方法でコンテンツを編成できます。また、他のユーザーまたはグループがオブジェクトにアクセスできる共有

フォルダにオブジェクトを格納することもできます。様々な基本タスク(オブジェクトのコピーおよび名前変更など)およびオブジェクト固有タスク(KPI エディタを使用した KPI の変更)をカタログから実行できます。カタログの詳細は、Oracle(R) Business Intelligence Suite Enterprise Edition ユーザーズ・ガイド 11g リリース 1 (11.1.1.2)を参照してください。

スケジュールの使用法

注： EPM Workspace のスケジュールを使用するには、Reporting and Analysis Framework をインストールおよび構成する必要があります。

スケジュールを使用して、バッチ、ジョブおよびイベントを管理およびスケジュールし、ステータスを表示します。スケジュールは主に、Financial Reporting、Interactive Reporting および Production Reporting によって使用されます。

スケジュールの機能は、次のとおりです。

- バッチ・スケジューラ
- ジョブ・キュー
- ジョブ通知
- パラメータの表示
- 実行中のジョブ
- イベントの管理
- 連結ジョブ・ステータス

Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。

「アイテムを開く」の使用法

「ナビゲート」の「アイテムを開く」を使用すると、開かれているモジュールまたはドキュメントのリストが表示され、開かれているドキュメントを素早く切り替えることができます。

ネイティブ・ディレクトリ・パスワードの変更

Oracle Internet Directory をネイティブ・ディレクトリとして使用する場合は、Shared Services により Oracle Internet Directory のパスワード・ポリシーが適用されます。Shared Services は、Oracle の Hyperion 製品にこれらのポリシーに基づいてパスワードを変更するよう求めるメッセージを表示します。ネイティブ・ディレクトリのアカウントは、他の会社のアプリケーションをサポートするために作成されたユーザー・アカウントから分離されるため、ネイティブ・ディレクトリのパスワード変更の影響を受けるのは Oracle の Hyperion 製品のみです。詳細は、Oracle

Enterprise Performance Management System Security Configuration Guide を参照してください。「パスワードの変更」は、この機能が有効であり、ユーザーに Shared Services ネイティブ・ユーザー権限がある場合に表示されます。

注： ネイティブ・ディレクトリのパスワードは、ネイティブ・ディレクトリのユーザー・アカウントを変更することによりいつでも変更できます。

▶ ネイティブ・ディレクトリのパスワードを変更するには、次の手順に従います。

- 1 「ツール」>「パスワードの変更」を選択します。
- 2 「現在のパスワード」に既存のパスワードを入力します。
- 3 「新パスワード」および「新パスワードの確認」に、新規パスワードを入力します。

注： 新パスワードは、Oracle Internet Directory のパスワード・ポリシーに従っている必要があります。

- 4 「OK」をクリックします。

EPM Workspace での URL の使用方法

次の手順を実行して、EPM Workspace で URL を開きます。

- URL を開く
- 新規ウィンドウで URL を開く
- URL の更新

URL を開く

ここでは、URL を開く手順を示します。

▶ URL を開くには、次の手順に従います。

- 1 「ファイル」の「開く」を選択し、「URL」を選択します。
- 2 URL 名を入力します。
- 3 「OK」を選択します。

新規ウィンドウで URL を開く

▶ 新規ウィンドウで URL を開くには、次の手順に従います。

- 1 URL を開くの手順を完了します。
- 2 「新規ウィンドウ」を選択します。

- 3 URL を入力します。
- 4 「OK」 を選択します。

URL の更新

ここでは、コンテンツ領域に表示された既存の URL のコンテンツを更新する手順を示します。

▶ URL を更新するには、次の手順に従います。

- 1 URL を開くの手順を完了します。
- 2 「URL の更新」 を選択します。
- 3 URL を入力します。
- 4 「OK」 を選択します。

Smart View の使用方法

Oracle Hyperion Smart View for Office には、Essbase、Financial Management、Planning および 4 つの EPM Workspace コンポーネント用の一般的な Microsoft Office インタフェースが用意されています:

- Financial Reporting
- Production Reporting
- Web Analysis
- Interactive Reporting(Smart View のエクスポート・オプションは使用不可)

この一元化されたインタフェースを使用すると、複数の Oracle 製品を同時に使用することや、Microsoft Office との統合を向上させることが可能になります。システム要件については、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックスを確認してください。マトリックスは http://www.oracle.com/technology/software/products/ias/files/fusion_certification.html(Business Intelligence 内) にあります。Oracle Hyperion Smart View for Office 実装には、次の EPM Workspace 機能が用意されています:

- 現在のデータ・オブジェクトの現在のページを Excel、Word または PowerPoint にエクスポートする。
- Financial Management および Oracle Essbase の機能を Excel、Word および PowerPoint コンテンツで公開する。
- 新規 Smart View リリースへのアップグレードを通知する。

Smart View では、次の 2 つのエクスポート・オプションを使用できます。

- 現在のデータ・オブジェクトの現在のページをイメージとして Word、PowerPoint、Excel にエクスポートし、後で Web アプリケーションを再クエリーしてイメージをリフレッシュする。

- ドキュメントをクエリー準備またはフォーマット済 HTML として Excel にエクスポートする。

コンテンツをクエリー準備 HTML としてエクスポートすると、現在のデータ・オブジェクトの現在のページが HTML に変換され、Oracle 固有のフォーマットが除去されます。これにより、Smart View は、Web アプリケーションとは関係なくデータ・ソースを再クエリーできるようになります。

コンテンツをフォーマット済 HTML としてエクスポートすると、現在のデータ・オブジェクトの現在のページが HTML に変換され、Oracle フォーマット定義および計算済メンバーが保持されます。これにより、Smart View はデータ・ソースを直接クエリーできなくなりますが、Oracle コンテンツは Microsoft Office アプリケーションで活用できるようになります。すべてのデータ・ソースおよび Web アプリケーションによってすべてのエクスポート・オプションがサポートされているわけではありません。Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。

▶ Smart View をインストールするには、次の手順を実行します。

1 次のいずれかの操作を行います:

1. eDelivery から Smart View をダウンロードします。Visual Explorer を使用するライセンスを所有している場合、このファイル名は smartviewHVE.exe です。所有していない場合は、smartview.exe です。
2. EPM Workspace で、「ツール」、「インストール」、「Smart View」の順に選択します。

2 インストール・ウィザードで使用する言語を選択します。

3 「次へ」をクリックします。

4 ウィザードで指示される手順に従って操作します。

5 インストールが完了したら、「終了」をクリックします。

6 次に Microsoft Office アプリケーションを起動すると、Smart View が表示されます。

Smart View の詳細は、Oracle Hyperion Smart View for Office, Fusion Edition を参照してください。

EPM Workspace の単一インスタンス

EPM Workspace 11.1.2.1 より前のリリースでは、/workspace または /workspace/index.jsp にアクセスすると、EPM Workspace の新しいインスタンスが別のブラウザ・ウィンドウで起動されます。単一インスタンス機能の場合、/workspace/ および /workspace/index.jsp の後続の呼出しは、外部 URL から起動された場合でも既存の EPM Workspace インスタンスの EPM Workspace タブ内にアイテムを開きます。また、単一インスタンスは、複数の EPM Workspace ウィンドウが以前に許可されていた場合に、追加の EPM Workspace ウィンドウが既存のセッションを閉じるのを防ぎます。

注： この URL の後ろにはスラッシュがあり、`index.jsp` は含まれません。`index.jsp` は使用しないことをお勧めします。これは、Web ブラウザの「戻る」ボタンが使用可能である場合、これを選択すると問題が発生する可能性があるためです。末尾にスラッシュを使用してください。これがない場合、Web サーバーにより、後ろにスラッシュがある URL にリダイレクトされます。9.3.1 より前の場合、インストール・スタート・ガイドでは後ろのスラッシュは省略されています。

注： EPM Workspace の埋込み呼出しはこの機能の影響を受けません。埋込み EPM Workspace の使用例には、スマート・カットの URL 表示があります。

単一インスタンスの動作を上書きする URL パラメータ

デフォルトでは、クライアント・マシンには EPM Workspace のインスタンスは 1 つしか存在できません。この動作は、URL パラメータと値 `multi_process=true` を使用して上書きすることが可能です。EPM Workspace の複数のセッションがオープン状態でなければならないインスタンスがあります。たとえば、Financial Management では、ユーザーがアプリケーションを並べて比較する必要がある場合があります。このパラメータを使用した URL の例は、`http://<host>:19000/workspace/?multi_process=true` です。

注： この URL パラメータを使用するお客様は、他の目的で使用しないでください。この URL パラメータを使用すると複数の EPM Workspace ウィンドウが使用可能になるため、EPM Workspace の起動に特殊な URL が使用されている場合、EPM Workspace タブに EPM Workspace アイテムを外部から起動する Oracle Hyperion Financial Close Management やその他の製品はサポートされません。

EPM Workspace のカスタマイズ

EPM Workspace をカスタマイズして、次の操作を行えます：

- 27 ページの「ダッシュボードからの EPM Workspace のタブとしての EPM Workspace オブジェクトの起動」
- 27 ページの「ダッシュボード内のフォルダのリポジトリ・コンテンツの列挙」
- 28 ページの「ダッシュボード内の EPM Workspace アプリケーションの列挙」
- 28 ページの「EPM Workspace によってサポートされる URL」

ダッシュボードからの EPM Workspace のタブとしての EPM Workspace オブジェクトの起動

テキスト・ラベルのダッシュボード・グラフィック・オブジェクトを作成し、次の例のようなスクリプトを「プロパティ」ダイアログのオブジェクト・タイトルに追加します。

- Financial Reporting レポートを起動する場合:

```
@HTML(<script> function newtabFR()
{top.gModuleManager.launchRelatedContentUri(top.location.href + "?
module=wksp.relatedcontent&repository_path=/encoded path to repository
object&showViewPane=false");}</script><span id="idnameFR"
onClick="newtabFR()" style="cursor:pointer"><title text></span>)
```

- Financial Management アプリケーションを起動する場合:

```
@HTML(<script> function newtabHFM()
{top.gModuleManager.launchRelatedContentUri(top.location.href + "?
module=hfm.appcontainer&sourceApp=<a href="#">hfm app&cluster=<a href="#">clustername");} </
script> <span id="idnamehfm" onClick="newtabHFM()"
style="cursor:pointer"><title text></span>)
```

- Planning アプリケーションを起動する場合:

```
@HTML(<script> function newtabPlan()
{top.gModuleManager.launchRelatedContentUri(top.location.href + "?
module=HyperionPlanning.planning&sourceApp=<a href="#">Planning application name");}
</script><span id="idnameplan" onClick="newtabPlan()"
style="cursor:pointer"><title text></span>)
```

- URI を起動する場合:

```
@HTML(<script> function newtabURI() {top.gModuleManager.launchUri("<a href="#">valid
URL");} </script><span id="idnameuri" onClick="newtabURI()"
style="cursor:pointer"><title text></span>)
```

注： top.location.href は <http://server:port/context> です

これらの URL は、Interactive Reporting ダッシュボード用です。サポートされている URL のその他の例は、[28 ページの「EPM Workspace によってサポートされる URL」](#)を参照してください。

ダッシュボード内のフォルダのリポジトリ・コンテンツの列挙

これにより、ダッシュボード内のフォルダのリポジトリ・コンテンツをリストして起動できます。ダッシュボードでは、埋込みブラウザ・オブジェクトを作成し、次のような URL を設定します。

http://server:port/workspace/browse/dyn?page=/jsp/com/hyperion/tools/workspacepages/folderlisting.jsp&repository_path=<encoded path to repository object>

他のパラメータは、次のとおりです。

- オプション: showViewPane=true/false
FALSE の場合、列挙したコンテンツを起動するときにビュー・ペインを非表示にします。デフォルト値は TRUE です。
- オプション: showIcons=true/false
FALSE の場合、リスト内のアイコンを非表示にします。デフォルト値は TRUE です。

ダッシュボード内の EPM Workspace アプリケーションの列挙

これにより、ダッシュボード内で EPM Workspace アプリケーションをリストして起動できます。ダッシュボードでは、埋込みブラウザ・オブジェクトを作成し、次のような URL を設定します。

http://server:port/workspace/browse/dyn?page=/jsp/com/hyperion/tools/workspacepages/appslisting.jsp

EPM Workspace によってサポートされる URL

EPM Workspace のサポート対象として発行されている URL は、次のとおりです。

- 標準 URL:

http://<server>:<port>/workspace/

注： この URL の後ろにはスラッシュがあり、index.jsp は含まれません。index.jsp は使用しないことをお勧めします。これは、Web ブラウザの「戻る」ボタンが使用可能である場合、これを選択すると問題が発生する可能性があるためです。末尾にスラッシュを使用してください。これがない場合、Web サーバーにより、後ろにスラッシュがある URL にリダイレクトされます。9.3.1 より前の場合、インストール・スタート・ガイドでは後ろのスラッシュは省略されています。

追加パラメータ:

- オプション: sso_username=<username>
ログインしようとしたユーザーの名前。
- オプション: sso_password=<password>
ログインしようとしたユーザーのパスワード。

注： 前述の 2 つのパラメータ `sso_username` および `sso_password` がサポートされるよう、管理者が「Workspace サーバー設定」ダイアログの「HTTP GET 要求のログイン情報の受入れ」設定を変更することが必要な場合があります。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide を参照してください。

- オプション: `fullscreen=true/false`

TRUE の場合、プログラムは全画面で起動します。デフォルト値は FALSE です。

- EPM Workspace の外部起動

ユーザーが複数の外部 URL を選択して EPM Workspace を起動する場合、EPM Workspace の増殖を制限するには、次のシナリオが可能です：

- デスクトップ上に EPM Workspace のセッションがない場合、新規のセッションが開きます
- 既存の EPM Workspace セッションが開かれている場合、新たに選択されたアイテムは既存の EPM Workspace セッション内のタブとして追加されません。

URL のフォーマットは次のとおりです: `http://<host>:<port>/workspace/WorkspaceLaunch.jsp?&uri=<encoded uri to workspace with parameters>`

- URI はオプションではありません。また、URI にはモジュール・パラメータも指定できます

例: `http://host:port/workspace/WorkspaceLaunch.jsp?&uri=index.jsp%3fmodule%3dcalcmgr.filterview`

注： この URL の後ろにはスラッシュがあり、`index.jsp` は含まれません。`index.jsp` は使用しないことをお勧めします。これは、Web ブラウザの「戻る」ボタンが使用可能である場合、これを選択すると問題が発生する可能性があるためです。末尾にスラッシュを使用してください。これがない場合、Web サーバーにより、後ろにスラッシュがある URL にリダイレクトされます。9.3.1 より前の場合、インストール・スタート・ガイドでは後ろのスラッシュは省略されています。

注： URI パラメータの値をエンコードする必要があります。

- リポジトリのコンテンツを起動する URL:

`http://<server>:<port>/workspace/?module=wksp.relatedcontent&repository_path=<encoded path to repository object>`

- Financial Management(集計)アプリケーションを起動する URL:

`http://<server>:<port>/workspace/?module=hfm.appcontainer&sourceApp=<hfm_application_name>&cluster=<cluster name>`

追加パラメータ:

- オプション: showViewPane=true/false
FALSE の場合、モジュールをロードするときに左ペインを非表示にします。デフォルト値は TRUE です。
- オプション: bpm.logoff=true/false
FALSE の場合、同じセッションを使用しているときにログオフできないようにします。デフォルト値は TRUE です。

- Planning アプリケーションを起動する URL:

http://<server>:<port>/workspace/?
module=HyperionPlanning.planning&sourceApp=<appname>

追加パラメータ:

- オプション: showViewPane=true/false
FALSE の場合、モジュールをロードするときに左ペインを非表示にします。デフォルト値は TRUE です。
- オプション: bpm.logoff=true/false
FALSE の場合、同じセッションを使用しているときにログオフできないようにします。デフォルト値は TRUE です。

Oracle User Productivity Kit の使用



UPK Player パッケージの有効な URL を使用して管理者が Oracle User Productivity Kit (UPK) を配置し、EPM Workspace を構成している場合、ユーザーは Oracle Enterprise Performance Management System の UPK コンテンツにアクセスできます。UPK の構成の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide の Workspace サーバー設定、およびアプリケーション・サポート・ガイドの Oracle User Productivity Kit に関する項を参照してください。

注： 事前作成された UPK コンテンツ・モジュールが用意されています。

Oracle.com (<http://www.oracle.com/us/products/applications/tutor-upk/064788.html>) で入手可能な、Oracle Enterprise Performance Management System の UPK を含むデータ・シートを参照してください。Oracle Hyperion Financial Management および Oracle Hyperion Planning モジュールには、Smart View および Oracle Hyperion Financial Reporting Studio の該当するコンテンツが含まれます。Financial Management および Planning では、コンテキストに依存した UPK コンテンツの起動がサポートされます。Smart View または Reporting Studio から起動された UPK コンテンツは、コンテキストでフィルタされない完全なプレーヤ・パッケージ・アウトラインを起動します。Reporting Studio および Smart View ユーザーは、役割フィルタを使用して、Oracle Hyperion Smart View for Office または Oracle Hyperion Financial Reporting Studio のコンテンツのみを表示できます。

▶ UPK ヘルプを開くには:

1 次の1つのアクションを実行します:

- 「ヘルプ」メニュー、続いて「Oracle User Productivity Kit」を選択します。
- 「ヘルプ」ツールバーの「UPK」をクリックします。
- ダイアログ・ボックスで「ヘルプ」をクリックし、「ヘルプ」ツールバーの「UPK」をクリックします。

2 オプション: ダイアログ・ボックスを開いた場合は、操作を終了したら閉じてください。

タイトル・バー領域

製品名の他に現在のユーザーが表示されます。また、ヘルプへのアクセスやログアウトをタイトル・バー領域から行えます。

ツールバー

ツールバーを使用することにより、一般的に使用される機能に対してコンテキストに依存した方法で迅速にアクセスします。ボタンの可用性は、コンテンツ領域のモジュールによって決まります。


注: ユーザーの役割によって、ユーザー・インタフェースに表示されるツールバー、メニュー、ショートカット・メニューおよびモジュールが決まります。たとえば、ドキュメントを作成できる役割の場合、ツールバー・ボタン「新規ドキュメント」が表示されます。EPM Workspace がスタンドアロンでインストールされている場合、ツールバー領域には「ホーム」ボタンのみが表示されます。

Reporting and Analysis Framework のツールバーの詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace User's Guide および Hyperion Web Analysis ユーザー・ガイドを参照してください。

EPM Workspace ツールバー

EPM Workspace ツールバーには、次のボタンが表示されます:

表 1 EPM Workspace ツールバーのボタン

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	NA	「プリファレンス」ダイアログで選択したホーム・ページを開きます。デフォルトの起動オプション。

メニュー

サブトピック

- 「ナビゲート」メニュー
 - 「ファイル」メニュー
 - 「編集」メニュー
 - 「表示」メニュー
 - 「お気に入り」メニュー
 - 「ツール」メニュー
 - 「ヘルプ」メニュー
-
- EPM Workspace の標準メニューは、「ナビゲート」、「ファイル」、「表示」、「ツール」および「ヘルプ」です。これらのメニューについて、次の表で説明します。
 - システムの使用時に、次の条件に基づいて、メニューおよびボタンが更新されます。
 - 付与された役割。役割により、「ナビゲート」から表示されるアイテムが決定します。
 - Reporting and Analysis Framework またはアプリケーション製品のインストール内容。
 - 使用中の「ナビゲート」アイテムおよび実行中のタスク。たとえば、エクスプローラを使用している場合は、メニューにファイルまたはフォルダに関するタスクが含まれます。

「ナビゲート」メニュー

「ナビゲート」メニューは、すべての EPM Workspace モジュールで使用可能です。各アイテムに表示されるオプションは、ユーザーの役割、権限、および Reporting and Analysis Framework またはアプリケーション製品からインストールしたコンポーネントによって異なります。たとえば、Reporting and Analysis Framework をインストールした場合、エクスプローラがオプションとして表示されます。

表2 「ナビゲート」メニュー

コマンド	説明
<ul style="list-style-type: none"> ● アプリケーション <ul style="list-style-type: none"> ○ 次に、「集計」(Financial Management アプリケーション) ○ 次に、「プランニング」(Planning アプリケーション) ○ 次に、「Performance Scorecard」 ○ 次に「Profitability」(Profitability and Cost Management Applications) ● Oracle BI <ul style="list-style-type: none"> ○ Oracle Business Intelligence アンサー ○ Oracle Business Intelligence インタラクティブ・ダッシュボード ○ Oracle Business Intelligence デリバー ● BI Publisher <p>注： インスタンス化された製品がインストールされていても、現在のユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされていない場合、「ナビゲート」>「アプリケーション」メニューには、使用不可な「アプリケーションなし」メニュー・アイテムが表示されます。「リフレッシュ」メニューは、「アプリケーション」メニューに常に表示されます。プロビジョニングされているアプリケーションがあるかどうかによって、「アプリケーションなし」メニューが表示されるかどうかが決まります。同じことが「ファイル」>「開く」>「アプリケーション」メニューにも該当します。</p>	<p>アクセス権と役割に基づいて利用可能なアプリケーションを開きます。</p>

コマンド	説明
<ul style="list-style-type: none"> ● エクスプローラ ● Workspace ページ <ul style="list-style-type: none"> ○ マイ Workspace ページ ○ 共有 Workspace ページ ● 管理 <ul style="list-style-type: none"> ○ Shared Services Console ○ Workspace サーバー設定 ○ Reporting and Analysis <ul style="list-style-type: none"> □ 全般 □ サービス □ Web アプリケーション □ エージェント □ Production Reporting エンジン □ Production Reporting データベース・サーバー □ 汎用ジョブ・アプリケーション □ パススルー構成 □ 物理リソース □ MIME タイプ □ 通知 □ 所有権の変更 □ 使用追跡 □ イベントの追跡 □ 行レベルのセキュリティ ○ 注釈 ○ 次元ライブラリ ○ アプリケーション・ライブラリ ○ データの同期 ○ Calculation Manager ○ クラシックから EPM Architect への変換 ○ ライブラリ・ジョブ・コンソール ○ インタフェース・データ・ソースの構成 ○ 連結管理 ○ Planning アプリケーション 	<p>管理モジュールを使用して、エンド・ユーザーが EPM Workspace を操作する方法に対する設定を管理します。こうしたメニュー・アイテムの使用の詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework Administrator's Guide、Oracle Hyperion Financial Management Administrator's Guide および Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● スケジュール <ul style="list-style-type: none"> ○ ジョブ・キュー ○ ジョブ通知 ○ パラメータの表示 ○ 実行中のジョブ ○ イベントの管理 ○ 連結ジョブ・ステータス ○ バッチ・スケジューラ 	<p>スケジュールにより、自動化処理のジョブおよびスケジュールのバッチおよびイベントを管理できます。</p>

コマンド	説明
<ul style="list-style-type: none"> ● インパクト・マネージャ <ul style="list-style-type: none"> ○ メタデータの同期化 ○ データ・モデルの更新 ○ JavaScript の更新 ○ カスタム更新 ○ タスク・リストの管理 ○ タスク・ステータスの表示 ○ 変更の影響の表示 	<p>インパクト・マネージャにより、データベース構造、データベース接続、または外部データ・ソースへのリンクが変更されたときに、Oracle Hyperion Interactive Reporting ドキュメントを更新できます。</p>
<p>アイテムを開く(開いたモジュールのリスト)</p>	<p>EPM Workspace で開いたアイテムを表示します。</p>

「ファイル」メニュー

「ファイル」メニューは、すべての EPM Workspace モジュールで使用可能です。オプションが使用可能かどうかは、現在のウィンドウの内容、メニューのアクセス元のモジュール、Reporting and Analysis Framework およびアプリケーションからインストールされた製品、およびユーザーの役割に応じて異なります。たとえば、エクスプローラの役割を持つユーザーは、「ファイル」>「新規」のオプションを使用できません。

表3 「ファイル」メニュー

コマンド	説明
<ul style="list-style-type: none"> ● ファイル <ul style="list-style-type: none"> ○ 新規 <ul style="list-style-type: none"> □ ドキュメント □ 個人用ページ □ Workspace ページ ● 開く <ul style="list-style-type: none"> ○ ドキュメント <ul style="list-style-type: none"> □ Workspace ページ <ul style="list-style-type: none"> ● マイ Workspace ページ ● 共有 Workspace ページ ○ URL ○ アプリケーション <ul style="list-style-type: none"> □ 集計(Financial Management アプリケーション)、 □ Performance Scorecard □ プランニング(Planning アプリケーション)、 □ Oracle Business Intelligence アンサー □ Profitability and Cost Management □ Oracle Business Intelligence インタラクティブ・ダッシュボード □ Oracle Business Intelligence Publisher ● 閉じる <ul style="list-style-type: none"> ○ 現在 ○ その他 ○ すべて <p>注： インスタンス化された製品がインストールされていても、現在のユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされていない場合、「ファイル」>「開く」>「アプリケーション」メニューには、使用不可な「アプリケーションなし」メニュー・アイテム、続いて「リフレッシュ」メニュー・アイテムが表示されます。ユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされている場合は、「アプリケーションなし」ラベルは表示されません。</p>	<p>ブック、バッチ、分析ドキュメントなどのドキュメントの作成、個人用ページ、Workspace ページおよびフォルダの作成、リポジトリ・ドキュメントの使用を行います。また、アプリケーション、個人用ページ、Workspace ページを開きます。</p> <p>「開く」オプションを使用して、ブック、バッチ、分析ドキュメントなどのドキュメントを開いたり、リポジトリ・ドキュメントを使用したりします。また、アプリケーション、個人用ページ、Workspace ページを開きます。</p> <p>「閉じる」オプションを使用して、開いているかフォーカスがある現在のドキュメントのみを閉じます。また、開いているすべてのドキュメントを閉じることができません。「その他」オプションは、フォーカスがあるかアクティブなドキュメントを除いたすべてのドキュメントを閉じるために使用します。</p> <p>インポート、プロパティおよびサブスクライブの詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。</p>

コマンド	説明
<ul style="list-style-type: none"> ● エクスポート ● インポート <ul style="list-style-type: none"> ○ ファイル ○ URL ○ ファイル(ジョブとして) ○ Financial Reporting ドキュメント ● プロパティ ● サブスクライブ 	
<ul style="list-style-type: none"> ● プリファレンス 	<p>「プリファレンス」ダイアログ・ボックスを開きます。「プリファレンス」を使用して、デフォルト・コンテンツ、アクセシビリティ・プリファレンスおよび製品固有のプリファレンスを設定します。</p> <p>Financial Reporting の場合は、言語の選択を変更し、XBRL の編集を使用可能にできます</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● ログオフ 	セッションを終了します
<ul style="list-style-type: none"> ● 終了 	EPM Workspace を終了します

「編集」メニュー

「編集」メニューには次のオプションがあります。

表 4

コマンド	説明
<ul style="list-style-type: none"> ● コピー ● 貼付け 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 名前変更 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 権限の編集 ● 子に権限を適用 	

「表示」メニュー

「表示」メニュー・オプションの可用性は、現在のウィンドウのコンテンツおよびメニューのアクセス元のモジュールに応じて異なります。

表 5 「表示」メニュー

コマンド	説明
マストヘッドの表示	メニュー・バーおよびツールバーを表示または非表示にします
ビュー・ペイン	ビュー・ペインを表示または非表示にします

コマンド	説明
<ul style="list-style-type: none"> ● 表示するアイテムのタイプ <ul style="list-style-type: none"> ○ すべてのファイル ○ すべての接続 ○ すべての Financial Reporting オブジェクト ○ すべてのイメージ ○ すべてのジョブの出力 ○ すべてのジョブ ○ すべてのジョブ(と出力) ○ すべての Office ファイル ○ すべてのレポート ○ 外部リンク ○ Hyperion <ul style="list-style-type: none"> □ (製品ドキュメント) ○ 標準 <ul style="list-style-type: none"> □ (ファイル・タイプ) ○ その他 	
<ul style="list-style-type: none"> ● ソート基準 <ul style="list-style-type: none"> ○ 名前 ○ タイプ ○ 変更済 ○ 説明 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 列の表示 ● 再表示 ● 重複の表示 	
リフレッシュ	

「お気に入り」メニュー

次のオプションは、「お気に入り」メニューで使用できます。

表 6

コマンド	説明
<ul style="list-style-type: none"> ● お気に入りに追加 ● お気に入りの管理 	
<ul style="list-style-type: none"> ● サブスクライブ・アイテムの表示 ● 個人用ページの管理 	
<ul style="list-style-type: none"> ● Performance Scorecard ● 個人用ページ 	

「ツール」メニュー

「ツール」メニューは常に使用可能です。コマンドが使用可能であるかどうかは製品および役割により決まります。

注： 管理者は、Workspace サーバー設定でフラグを設定することにより、「インストール」メニューにアイテムを表示しないようにできます。

表7 「ツール」メニュー

コマンド	説明
● パスワードの変更	● ネイティブ・パスワードを変更します
● インストール <ul style="list-style-type: none">○ Smart View○ Strategic Finance クライアント○ Interactive Reporting Web Client○ Financial Reporting Studio○ オフライン・プランニング	● 製品インストールのオプション。 <ul style="list-style-type: none">○ Oracle Hyperion Smart View for Office。詳細は、24 ページの「Smart View の使用方法」を参照してください。○ Oracle Hyperion Strategic Finance クライアントをインストールします○ Oracle Hyperion Interactive Reporting Web Client をインストールします。○ Oracle Hyperion Financial Reporting クライアントをインストールします○ オフライン・プランニングでは、オフライン実行ファイルをダウンロードしてオフラインで Planning インストーラを実行できます。詳細は、Oracle Hyperion Planning User's Guide を参照してください。
リンク	Web Analysis Studio のリンク

「ヘルプ」メニュー

「ヘルプ」メニューを使用して、EPM Workspace のヘルプおよび EPM Workspace に関する情報を参照します。

表8 「ヘルプ」メニュー

コマンド	説明
ヘルプ	現在のトピックのヘルプを表示します。
コンテンツ	オンライン・ヘルプの「目次」タブを開きます。特定のヘルプ・トピックを検索できます。
Oracle User Productivity Kit 注： UPK は、Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition 11.1.2.1 の UPK をサポートする製品で使用可能です。たとえば、Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning などがあります。	Oracle User Productivity Kit (UPK)には、本稼働環境のユーザーをサポートするために設計されたライブラリが含まれています。ヘルプ・システムと統合されている場合、UPK は、ユーザーのタスク実行方法を反映したコンテキスト依存のトレーニング・シミュレーションを提供します。UPK は、管理者が「ナビゲート」、続いて「管理」、「Workspace サーバー設定」ダイアログを使用して有効にする必要があります。UPK が有効になると、Oracle Enterprise Performance Management Workspace の「ヘルプ」メニューから Oracle User Productivity Kit がリスト表示されます。オンライン・ヘルプのツールバーにも「UPK」ボタンがあります。 詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide の Workspace サーバー設定を参照してください。
テクニカル・サポート	Oracle テクニカル・サポート・ホームページを開きます。

コマンド	説明
EPM ドキュメント	EPM ドキュメント・ホーム・ページを開きます
Oracle Web サイト	Oracle ホームページを開きます。
Oracle Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition のバージョン情報	EPM Workspace、Reporting and Analysis Framework、UI および Server のバージョンおよびバージョン詳細などの EPM Workspace に関する情報を含む Oracle Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition のバージョン情報ウィンドウを開きます

2

全般プリファレンスの設定と EPM Workspaceのカスタマイズ

この章の内容

プリファレンスの設定.....	41
-----------------	----

プリファレンスの設定

EPM Workspace の次回ログイン、エクスプローラ、アプリケーション、ファイル・タイプ、Oracle Hyperion Reporting and Analysis 製品、Oracle BI EE および Oracle BI Publisher 製品の初期ビューのデフォルトを設定します。Reporting and Analysis Framework のプリファレンスについては、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。Planning のエンド・ユーザーのプリファレンス設定の詳細は、Oracle Hyperion Planning User's Guide を参照してください。管理者およびアプリケーションのプリファレンスの詳細は、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。Financial Management エンド・ユーザーのプリファレンス設定は、Oracle Hyperion Financial Management User's Guide を参照してください。Performance Scorecard の詳細は、Oracle Hyperion Performance Scorecard Administrator's Guide および Oracle Hyperion Performance Scorecard のアプリケーション・デザイナーに関するガイドを参照してください。Profitability and Cost Management については、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management User's Guide および Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide を参照してください。次のプリファレンス用タブを使用します。

- 42 ページの「全般プリファレンスの設定」
- エクスプローラのプリファレンスについては、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください
- Oracle Hyperion Web Analysis のプリファレンスの詳細は、Hyperion Web Analysis ユーザー・ガイドを参照してください
- Oracle Hyperion Financial Reporting のプリファレンスの詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace User's Guide を参照してください
- Oracle Hyperion SQR Production Reporting および Oracle Hyperion Interactive Reporting Web Client の詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework User's Guide を参照してください。

全般プリファレンスの設定

すべてのユーザーが全般プリファレンスにアクセスできます。たとえば、Planning または Financial Management ユーザーはログオン時にデフォルトの起動アイテムとしてアプリケーションを設定できます。コンテンツ領域のデフォルト開始ページはデフォルトで全般プリファレンス・セットであり、ドキュメント・パスの表示、ファイルの保存を促すプロンプトの提示、アクセシビリティ・モードとデフォルトの電子メール・アドレスの設定を行います。

プリファレンスを使用して加えた変更は、次のログオン時に有効になります。

▶ 全般プリファレンス:

1 「ファイル」、「プリファレンス」

注: 表示された電子メール・アドレスは、ユーザー・セキュリティ設定に登録されている電子メール・アドレスです。このアドレスを更新することはできません。電子メール・アドレスがユーザー・セキュリティ設定に登録されていない場合は、「電子メール・アドレスが見つかりませんでした。」が表示されます。

2 EPM Workspace では、「保存されていないファイルの保存を確認する」を選択することにより、未保存のファイルを保存するように促すプロンプトが表示されます。

3 「ドキュメントのパスの表示」の選択を解除することにより、進行状況バーでドキュメント・ファイル・パスを非表示にします。

4 「デフォルトの起動オプション」で、EPM Workspace へのログイン時に常にデフォルトで表示するオプションを選択します。Reporting and Analysis Framework がインストールおよび構成されている場合、デフォルトは「ホーム・ページ」です。

5 Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework がインストールおよび構成されている場合、**手順 4** での選択内容に応じて、次の手順を実行します:

- 「エクスプローラ」オプションで、「選択」をクリックします。「選択」から、フォルダを選択し、「OK」をクリックします。「フォルダ」にパスとフォルダが表示されます。
- 「ドキュメント」オプションで、「選択」をクリックします。「選択」から、ドキュメントを選択し、「OK」をクリックします。「ドキュメント」テキスト・ボックスにパスとドキュメント名が表示されます。
- 「お気に入り」オプションで、次のいずれかを選択します:
 - 保存済のお気に入りページを「お気に入り」メニューから選択し、コンテンツ領域に表示します。
 - 「個人用ページ」をクリックします。
- 「アプリケーション」フィールドの隣にあるドロップダウン矢印でアプリケーション・オプションを選択します。次のいずれかを選択します。
 - Financial Management アプリケーションの統合
 - Planning アプリケーションのプランニング
 - Profitability and Cost Management の Profitability
 - Oracle BI EE アプリケーション:

注： インスタンス化された製品がインストールされていても、現在のユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされていない場合、アプリケーションをデフォルトの起動オプションとして選択するには、そのユーザーにアプリケーションをプロビジョニングする必要があります。同じことが「ファイル」>「開く」>「アプリケーション」メニューにも該当します。

- スコアカード(Performance Scorecard がインストールおよび構成されている場合)

6 「現在のページの使用」ボタンを使用すると、デフォルトの起動オプションを簡単かつ迅速に設定できます。「現在のページの使用」ボタンを使用するよう選択するには、次のことを行います：

1. 現在のアクティブ・ページが、「デフォルトの起動オプション」として設定するページであることを確認します。これは、「なし」または BI カタログです。
2. 「現在のページの使用」を選択します。
3. 「コンテンツ」ドロップダウン・メニューでは「ドキュメント」または「エクスプローラ」が自動的に選択され、「ドキュメント」または「エクスプローラ」の値も自動的に設定されます。

7 次のいずれかの作業を行います。

- 変更内容を保存します。「OK」をクリックします。
- 変更をキャンセルします。「キャンセル」をクリックします。

3

アプリケーションの起動

この章の内容

Oracle Hyperion アプリケーションの起動.....45

Oracle Hyperion アプリケーションの起動

「ナビゲート」メニューの「アプリケーション」には、開くことができる Profitability and Cost Management、Oracle Business Intelligence、Oracle Hyperion Performance Scorecard、Planning または Financial Management アプリケーションのリストを含めることができます。

「アプリケーション」は次の両方を満たす場合に表示されます:

- ユーザーがアクセス権を持っている
- アプリケーションがインストールされ、使用可能な状態である

使用可能なアプリケーションのリストは、Oracle Hyperion Shared Services から取得されます。アプリケーションを選択すると、アプリケーションは新規タブで起動され、ログイン情報の入力を求めるメッセージが再度表示されないように、シングル・サインオンのトークンが渡されます。

使用可能なアプリケーションのリストは、ユーザーのプロビジョニング・ステータスでフィルタされます。たとえば、現在ログオンしているユーザーが Planning Real App を含むプロジェクト用にプロビジョニングされていない場合、そのアプリケーションはリストに表示されません。Oracle Hyperion Planning アプリケーションの使用方法の詳細は、Oracle Hyperion Planning User's Guide を参照してください。Oracle Hyperion Financial Management アプリケーションの詳細は、Oracle Hyperion Financial Management User's Guide を、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management アプリケーションの詳細は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management User's Guide を、Oracle BI EE アプリケーション製品の詳細は、Oracle BI EE の製品ガイドを参照してください。

▶ アプリケーションを起動するには、次の手順に従います。

1 「ナビゲート」を選択し、「アプリケーション」を選択します。

インストールされている製品およびアクセス権を持っている製品の使用可能なアプリケーションのリストが表示されます。

注： インスタンス化された製品がインストールされていても、現在のユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされていない場合、「ナビゲート」>「アプリケーション」メニューには、使用不可な「アプリケーションなし」メニュー・アイテム、続いて「リフレッシュ」メニュー・アイテムが表示されます。ユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされている場合は、「リフレッシュ」を除き、これらのメニュー・アイテムは表示されません。同じことが「ファイル」>「開く」>「アプリケーション」メニューにも該当します。

2 開くアプリケーションを選択します。

アプリケーションが EPM Workspace の上部にタブとして起動されます。これにより、画面を容易に切り替えることができます。

注： EPM Workspace から特定のアプリケーションを表示するときにプリファレンスを設定できます。[第 2 章「全般プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ」](#)を参照してください。

4

Oracle BI EEの使用方法

この章の内容

概要	47
EPM Workspace から Oracle BI EE へのアクセス	47
Oracle BI EE プリファレンスの設定	49

概要

Oracle BI EE では、以下に対応する豊富なビジネス・インテリジェント機能が提供されます。

- 組織の最新データの収集
- 理解しやすいフォーマットでのデータの表示(表やグラフなど)
- 社員への適切なタイミングでのデータ配信

Oracle BI EE のコンテンツは、EPM Workspace 内で作成およびアクセスできます。Oracle BI EE の使用に関する情報は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のユーザーズ・ガイドを参照してください。

注： Oracle BI プレゼンテーション・カタログ、Oracle BI EE ホーム・ページ、BI インタラクティブ・ダッシュボード、BI Publisher (統合モードのみ)および BI Delivers のみが、EPM Workspace で使用できる Oracle BI EE モジュールです。BI アンサー・モジュールは、特定のオブジェクトが開くときに起動されます。

EPM Workspace から Oracle BI EE へのアクセス

サブトピック

- [Oracle BI EE カタログ](#)
- [Oracle BI EE ホーム・ページ](#)
- [Oracle BI EE インタラクティブ・ダッシュボード](#)

▶ EPM Workspace から Oracle BI EE にアクセスするには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」>「アプリケーション」の順に選択します。
- 2 「Oracle BI EE」オプションの 1 つを選択します。

- BI カタログ(Oracle BI EE のカタログ・ページが表示され、ユーザーが権限を持っているファイル・システムのすべての部分にアクセスできます)
- BI ホーム(BI ホーム・ページが表示され、ユーザーが Oracle BI EE 機能にアクセスできます)
- BI インタラクティブ・ダッシュボード(Oracle BI EE のダッシュボード・ページが表示され、Oracle BI EE ダッシュボードの作成、編集、表示、対話を使用できます。)

ユーザーの権限や役割に基づいてこれらの製品を使用できるかどうか、および EPM Workspace での製品の使用については、[第 3 章「アプリケーションの起動」](#)を参照してください。

Oracle BI EE カタログ

Oracle BI EE カタログは、ビジネス・インテリジェンス・オブジェクトを格納し、ユーザーがオブジェクトの作成、アクセスおよび管理を行うインタフェースを提供して、オブジェクト・ベースの特定のタスク(エクスポート、印刷、編集など)を実行します。カタログは、共有または個人のいずれかのフォルダに編成されません。

Oracle BI EE プレゼンテーション・カタログの詳細は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のユーザーズ・ガイドを参照してください。

Oracle BI EE ホーム・ページ

Oracle BI EE ホーム・ページは、Oracle BI EE でタスクを実行するための開始位置です。ホーム・ページはセクションに分かれており、各セクションでは、特定のタスクを素早く開始したり、オブジェクトを検索したり、テクニカル・ドキュメントにアクセスできます。また、表示、作成または更新を最近行ったオブジェクトや、所属するグループに含まれるユーザーが最もよくアクセスするオブジェクトに、すぐにアクセスできるセクションもあります(「最近」や「お気に入り」など)。

ホーム・ページの詳細は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のユーザーズ・ガイドを参照してください。

Oracle BI EE インタラクティブ・ダッシュボード

Oracle BI EE インタラクティブ・ダッシュボードは、個人の役割および ID に基づいて、活用度が高く動的にカスタマイズされた情報に対して知識業務に役立つ直感的かつ対話的なアクセスを提供します。Oracle BI EE インタラクティブ・ダッシュボード環境では、エンド・ユーザーは純粋な Web アーキテクチャでライブ・レポート、プロンプト、チャート、テーブル、ピボット・テーブル、グラフィックおよびティッカを操作します。ユーザーは、こうした結果のドリル、ナビゲート、変更および操作に必要なすべての機能を利用できます。Oracle BI EE インタラクティブ・ダッシュボードはまた、インターネット、共有ファイル・サーバー、

ドキュメント・リポジトリを含む他の様々なソースからコンテンツを集約できます。

Oracle BI EE インタラクティブ・ダッシュボードの詳細は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のユーザーズ・ガイドを参照してください。

Oracle BI EE プリファレンスの設定

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace を Oracle BI EE で使用する前に、Oracle BI EE 製品のデフォルト設定とプリファレンスを変更することをお勧めします。

▶ Oracle BI EE プリファレンスを設定するには:

- 1 「ファイル」メニューから「プリファレンス」を選択します。
- 2 「Oracle BI」を選択し、表示されるタブの作業を完了します。

注： Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の設定とプリファレンスの指定方法の詳細は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のユーザーズ・ガイドを参照してください。

- 3 すべてのタブで設定およびプリファレンスの指定が終了したら、「OK」を選択します。



アクセシビリティ

障害のあるお客様にオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメンテーションをご利用いただくために、Oracle(R) Essbase Spreadsheet Add-in では、アクセシビリティ機能をサポートしています。EPM System 製品では、アクセシビリティ機能をサポートしており、機能については製品のアクセシビリティ・ガイドで説明しています。このガイドの最新版は、Oracle Technology Network の EPM System ドキュメント・ライブラリにあります(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)。

用語集

! 「感嘆符」を参照してください。

#MISSING 「欠落データ」を参照してください。

2 パス 他のメンバーの計算済の値に依存するメンバーを再計算するために使用される、Essbaseのプロパティです。2パスのメンバーは、2番目のパスの間にアウトラインから計算されます。

Calculation Manager Planning および **Financial Management** のユーザーがグラフィカルな環境でビジネス・ルールを設計、検証、管理するために使用できる、Enterprise Performance Management Architect (EPMA)のモジュールの1つです。

CDF 「カスタム定義関数」を参照してください。

CDM 「カスタム定義マクロ」を参照してください。

Cookie Web サイトによってコンピュータ上に配置されたデータのセグメントです。

EPM Oracle インスタンス EPM System 製品のアクティブな動的コンポーネント(実行時に変更できるコンポーネント)を含むディレクトリです。EPM Oracle インスタンス・ディレクトリの場所は、EPM System コンフィグレーションを使用した構成時に定義します。

EPM Oracle ホーム EPM System 製品に必要なファイルを含むミドルウェア・ホームのサブディレクトリです。EPM Oracle ホームの場所は、EPM System インストーラでインストールする際に指定します。

essbase.cfg Essbase のオプションの構成ファイルです。管理者は、このファイルを編集して Essbase サーバー機能をカスタマイズできます。一部の構成は、Essbase クライアントで使用することにより、Essbase サーバーの設定を上書きできます。

EssCell 特定の Essbase データベース・メンバーの交差を示す値を取得するために、Essbase Spreadsheet Add-in のセルに入力する関数です。

ESSCMD Essbase の操作を対話的に実行したり、バッチ・スクリプト・ファイルから実行したりするための、コマンドライン・インタフェースです。

ESSLANG テキスト文字を解釈するために使用されるエンコード方式を定義する Essbase 環境変数です。「エンコード方式」も参照してください。

ESSMSH 「MaxL シェル」を参照してください。

Extensible Markup Language (XML) データに属性を割り当てるタグのセットで構成される言語です。スキーマに基づいて、複数のアプリケーションの間で解釈可能です。

Extract-Transform-Load (ETL) データを抽出してアプリケーションに移行するための、データ・ソース固有のプログラムです。

GUI グラフィカル・ユーザー・インタフェースです。

ID 外部認証におけるユーザーまたはグループの一意の ID です。

Interactive Reporting 接続ファイル(.oce) データベース API(ODBC、SQL*Net、など)、データベース・ソフトウェア、データベース・サーバーのネットワーク・アドレス、データベース・ユーザー名などのデータベース接続情報を含むファイルです。管理者は、Interactive Reporting 接続(.oce)ファイルを作成して発行します。

Java アプリケーション・サーバー・クラスタ Java 仮想マシン(JVM)のアクティブ-アクティブ・アプリケーション・サーバー・クラスタです。

Java データベース接続(JDBC) Java クライアントとリレーショナル・データベースにより使用されるクライアントとサーバー間の通信プロトコルです。JDBC インタフェースにより、SQL データベースのアクセスのための呼出しレベル API が提供されます。

JSP Java Server Page です。

KeyContacts ガジェット Smart Space ユーザーのグループを含み、Smart Space Collaborator へのアクセスを提供するガジェットです。たとえば、マーケティング・チームおよび開発チーム向けに個別の KeyContacts ガジェットを使用できます。「ガジェット」も参照してください。

LRO 「リンク・レポート・オブジェクト」を参照してください。

MaxL Essbase で使用される多次元データベース向けアクセス言語です。データ定義の言語(MaxL DDL)とデータ操作の言語(MaxL DML)から構成されます。「MaxL DDL」、「MaxL DML」、および「MaxL シェル」も参照してください

MaxL DDL Essbase で、バッチまたは対話的なシステム管理のタスクに使用されるデータ定義の言語です。

MaxL DML Essbase で、データのクエリーと抽出に使用されるデータ操作の言語です。

MaxL DML の計算済メンバー 分析を目的として設計されたメンバーです。MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションで定義されます。

MaxL Perl モジュール Essbase MaxL DDL の一部である Perl モジュール(essbase.pm)です。このモジュールを Perl パッケージに追加すると、Perl プログラムから Essbase データベースにアクセスできます。

MaxL シェル MaxL ステートメントを Essbase サーバーに渡すためのインタフェースです。MaxL シェルの実行可能ファイル(UNIX は essmsh、Windows は essmsh.exe)は、Essbase の bin ディレクトリに格納されています。

MaxL スクリプト・エディタ 管理サービス・コンソールのスクリプト開発環境です。MaxL スクリプトで Essbase を管理するとき、テキスト・エディタと MaxL シェルの代替として MaxL スクリプト・エディタを使用できます。

MDX(多次元式) 多次元準拠のデータベースにおけるクエリーおよび計算で使用される言語です。

MIME タイプ アイテムのデータ・フォーマットを示す属性です。これにより、システムはオブジェクトを開くアプリケーションを判断します。ファイルの MIME(多目的インターネット・メール仕様)タイプはファイル拡張子または HTTP ヘッダーにより判別されます。プラグインはブラウザに対して、サポートされる MIME タイプ、および各 MIME タイプに対応するファイル拡張子を通知します。

NULL 値 データのない値です。NULL 値はゼロに等しくありません。

ODBC Open Database Connectivity の略です。データベース管理システム(database management system: DBMS)の情報処理方法に関係なく、あらゆるアプリケーションにより使用されるデータベース・アクセスのメソッドです。

「OK」ステータス 集計ステータスの1つです。エンティティが集計済であり、組織階層の下にあるデータが変更されていないことを示します。

OLAP メタデータ・カタログ Essbase Integration Services における、リレーショナル・データ・ソースから引き出されたデータの性質、ソース、場所および種別について説明するメタデータを含むリレーショナル・データベースです。

OLAP モデル Essbase 統合サービスにおける、リレーショナル・データベースの表および列から作成された論理モデル(スター・スキーマ)です。OLAP モデルは多次元データベースの構造を生成するために使用されます。「オンライン分析プロセス(OLAP)」も参照してください。

Open Database Connectivity (ODBC) 標準のアプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)です。これにより、アプリケーションから複数のサードパーティ・データベースにアクセスできます。

Oracle ホーム 特定の製品に必要なインストール・ファイルを含むディレクトリで、ミドルウェア・ホームのディレクトリ構造内に配置されます。「ミドルウェア・ホーム」も参照してください。

PL 勘定(P&L) 損益勘定です。通常、PL 勘定は、会社の損益計算書を構成する費用勘定科目と収益勘定科目の集合を指します。

POV (視点) 行、列、またはページ軸に割り当てられていないメンバーを選択することにより、データ・フォーカスを設定する機能です。たとえば、FDMでの POV の選択項目には、場所、期間、カテゴリ、およびターゲット・カテゴリが含まれる可能性があります。また、Smart View で POV をフィルタとして使用すると、Currency 次元を POV に割り当て、Euro メンバーを選択できます。データ・フォームで POV を選択すると、ユーロ建でデータが表示されます。

Production Reporting 「SQR Production Reporting」を参照してください。

PVA 「期別価額メソッド」を参照してください。

root メンバー 次元分岐における最上位のメンバーです。

Shared Services レジストリ Shared Services リポジトリの一部であり、ほとんどの EPM System 製品の EPM System 配置情報(インストール・ディレクトリ、データベース設定、コンピュータ名、ポート、サーバー、URL、依存サービス・データなど)を管理します。

SPF ファイル SQR Production Reporting Server で作成される、プリンタに依存しないファイルです。フォント、間隔、ヘッダー、フッターなど、フォーマットされた実際のレポート出力を表します。

SQL スプレッドシート SQL クエリーの結果セットを表示するデータ・オブジェクトです。

SQR Production Reporting データ・アクセス、データ操作、および SQR Production Reporting ドキュメント作成のための専用プログラミング言語です。

Structured Query Language (SQL) リレーショナル・データベースに対する指示を処理するために使用される言語です。

TCP/IP 「Transmission Control Protocol/Internet Protocol」を参照してください。

Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP) 異なるオペレーティング・システムおよび内部アーキテクチャを持つコンピュータをリンクする標準的な通信プロトコルのセットです。TCP/IP を使用すると、LAN および WAN に接続する多様なコンピュータとの間でのファイルの交換、メールの送信、およびデータの保管が可能です。

Unicode モードのアプリケーション 文字テキストが UTF-8 でエンコードされている Essbase アプリケーションです。様々な言語に設定されているコンピュータを使用するユーザーが、アプリケーション・データを共有できます。

WebLogic Server ホーム WebLogic Server インスタンスに必要なインストール・ファイルを含むミドルウェア・ホームのサブディレクトリです。WebLogic Server ホームは、Oracle ホームと同等のものです。

WITH セクション MaxL DML で、オプションで使用できるクエリーのセクションです。セットまたはメンバーを定義する再利用可能な論理を作成するために使用されます。WITH セクションでセット(カスタム・メンバー)を一度定義すると、クエリー中に複数回参照できます。

Workspace ページ 複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracle およびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。

ws.conf Windows プラットフォーム用の構成ファイルです。

wscnf_platform UNIX プラットフォーム用の構成ファイルです。

XML 「Extensible Markup Language」を参照してください。

XOLAP アウトラインのメタデータのみを保管し、クエリー時にリレーショナル・データベースからすべてデータを取得する、Essbase の多次元データベースです。XOLAP は、集約ストレージ・データベースおよび重複メンバー名を含むアプリケーションをサポートします。

Y 軸スケール 「調査」セクションに表示される、チャートの Y 軸上の値の範囲です。たとえば、各チャートについて一意の Y 軸スケールを使用したり、すべての詳細チャートに同一の Y 軸スケールを使用したり、または列内のすべてのチャートに同一の Y 軸スケールを使用することが可能です。多くの場合、共通の Y 軸スケールを使用すると、一目でチャートを比較できるようになります。

Zero Administration サーバー上のプラグインの最新バージョン番号を識別するソフトウェア・ツールです。

アウトライン 多次元データベースのデータベース構造です。すべての次元、メンバー、タグ、タイプ、集計、および算術的関係を含みます。データは、アウトラインに定義された構造に応じてデータベースに保管されます。

アウトライン同期 パーティション・データベースで、データベースのアウトラインの変更を他のデータベースに伝播するプロセスです。

アクセサ データ・マイニングのアルゴリズムに関する入出力データ仕様です。

アクセス権 リソースに対してユーザーが実行できる一連の操作です。

アクティビティ・レベルの承認 操作対象のデータに依存せず、アプリケーションへのユーザー・アクセス、およびアプリケーションで実行できるアクティビティのタイプを定義します。

アクティブ-アクティブ高可用性システム すべての使用可能メンバーが要求に対応でき、アイドル状態のメンバーがないシステムです。通常、アクティブ-アクティブ・システムは、アクティブ-パッシブ・システムより豊富な拡張性オプションを備えています。「アクティブ-パッシブ高可用性システム」と対比してください。

アクティブ-パッシブ高可用性システム 常に要求に対応するアクティブ・メンバーと、アクティブ・メンバーに障害が発生した場合にのみアクティブ化されるパッシブ・メンバーを含むシステムです。「アクティブ-アクティブ高可用性システム」と対比してください。

アクティブ・サービス 実行タイプが保留ではなく開始に設定されているサービスです。

アセンブリ EPM System 製品またはコンポーネントのインストール・ファイルです。

値次元 入力値、換算値、および連結の詳細を定義するために使用される次元です。

アダプタ ターゲットおよびソース・システムのデータやメタデータにプログラムを統合するためのソフトウェアです。

アップグレード 新しいソフトウェア・リリースを配置し、アプリケーション、データおよびプロビジョニング情報を前の配置から新しい配置に移動するプロセスです。

宛先 1)Business Rules では、計算された値が保管されるデータベース・ブロックです。2)Profitability and Cost Management では、割り当てられたコストや収益のフローの方向を制御する割当てモデルでのソースと宛先の関連付けです。

アドホック・レポート エンド・ユーザーが動的に作成するオンライン分析クエリーです。

アプリケーション 1)特定のタスクまたはタスクのグループを実行するために設計されたソフトウェア・プログラムです(スプレッドシート・プログラム、データベース管理システムなど); 2)必要とされる特定の分析またはレポート、あるいはその両方に対応するために使用される、次元および次元メンバーの関連するセットです。

アプリケーション移行ユーティリティ アプリケーションとアーティファクトの移行に使用されるコマンド・ライン・ユーティリティです。

アプリケーション管理者 アプリケーションの設定、構成、維持、および制御の担当者です。アプリケーションのすべての権限およびデータ・アクセス権を持ちます。

アプリケーション・サーバー・クラスタ 複数のアプリケーション・サーバーが緩やかに結合したグループです。これらのアプリケーション・サーバーは、信頼性と拡張性を実現するために連携して同時に実行し、ユーザーには1つのアプリケーション・サーバーのように見えます。「垂直アプリケーション・クラスタ」および「水平アプリケーション・クラスタ」も参照してください。

アプリケーションの通貨 アプリケーションのデフォルトのレポート用通貨です。

アペンダ 宛先を意味する Log4j の用語です。

安全率 より安全な投資から期待される利回りです(米国の長期国債など)。

暗黙の共有 メンバーが1つ以上の子を持ち、連結されている子は1つのみである場合、親と子が値を共有します。

アーティファクト 個別のアプリケーションまたはリポジトリ・アイテムです(スクリプト、フォーム、ルール・ファイル、Interactive Reporting ドキュメント、財務レポートなど)。オブジェクトとも呼ばれます。

移行監査レポート 移行ログから生成されるレポートです。アプリケーションの移行に関する追跡情報を提供します。

移行スナップショット アプリケーションの移行のスナップショットです。移行ログに取込まれます。

移行定義ファイル(.mdf) アプリケーションの移行に使用される移行パラメータを含むファイルです。これによりバッチ・スクリプトを処理できます。

移行ログ アプリケーションの移行のすべてのアクションとメッセージを取込むログ・ファイルです。

依存エンティティ 組織内の他のエンティティに属するエンティティです。

一意でないメンバー名 「重複メンバー名」を参照してください。

一意のメンバー名 データベース・アウトライン内に一度のみ存在する、共有されないメンバーの名前です。

一意メンバーのアウトライン 重複メンバー名を使用できないデータベース・アウトラインです。

イメージ・ブックマーク Web ページやリポジトリ・アイテムへのグラフィック・リンクです。

因果関係マップ 企業戦略を形成する要素の関連、およびこれらの要素が組織の戦略目標を達成するためにどのように連動するかを示すマップです。因果関係マップのタブは、各戦略マップについて自動的に作成されます。

インストール・アセンブリ EPM System インストーラのプラグ・インである、製品のインストール・ファイルです。

インデックス 1)疎データの組合せによりブロック・ストレージ・データベースでデータを取得するメソッドです。2)インデックス・ファイルを指します。

インデックス・キャッシュ インデックス・ページを含むバッファです。

インデックス項目 疎次元の交差へのポインタです。インデックス・エントリはディスク上のデータ・ブロックをポイントし、オフセットを使用してセルを検索します。

インデックス・ファイル ブロック・ストレージのデータ取得情報を格納する Essbase ファイルです。ディスクに常駐し、インデックス・ページを含みます。

インデックス・ページ インデックス・ファイルの下部区分です。インデックス・ページには、データ・ブロックを指すポインタが含まれます。

イントロスペクション データベース固有の関係に基づいて階層を判断するために、データ・ソースを詳細に検査することを指します。「スクレーピング」と対比してください。

インポート・フォーマット FDM での、ソース・ファイルの構造の定義です。これにより、ソース・データ・ファイルを FDM データのロード位置にロードできます。

疎次元 ブロック・ストレージ・データベースで、他の次元と比較した際に、すべてのメンバーの組合せについてのデータを含んでいる可能性が低い次元です。「密次元」と対比してください。たとえば、すべての製品についてのデータがすべての顧客に含まれているわけではありません。

「影響」ステータス 親エンティティに連結する子エンティティの変更を示すステータスです。

エンコード方式 テキストの作成、保管、表示のためにビット組合せを文字にマッピングするメソッドの 1 つです。各エンコード方式には UTF-8 などの名前が付けられています。各エンコード方式では、それぞれの値は特定のビット組合せにマッピングされています。たとえば、UTF-8 では大文字の A は HEX41 にマッピングされています。「コード・ページ」および「ロケール」も参照してください。

エンタープライズ・ビュー Administration Services の機能の 1 つです。グラフィカルなツリー・ビューを使用して Essbase 環境を管理できます。エンタープライズ・ビューから、Essbase アーティファクトを直接操作できます。

エンティティ 部門、子会社、工場、地域、製品など、組織での財務報告単位となる組織単位を示す次元です。

エージェント アプリケーションやデータベースの開始と停止、ユーザー接続の管理、ユーザー・アクセスのセキュリティ対策を行う Essbase サーバー・プロセスです。このエージェントは、ESSBASE.EXE と呼ばれます。

お気に入りガジェット Reporting and Analysis ドキュメントおよび URL へのリンクを含むガジェットです。「ガジェット」も参照してください。

親 直接レポートする依存エンティティを1つ以上含むエンティティです。親は少なくとも1つのノードに関連しているエンティティであるため、エンティティ、ノード、および親の情報が関連付けられています。

親の調整 親に関連して子に転記される仕訳エントリーです。

オンライン分析プロセス(OLAP) 複数ユーザーによりクライアントとサーバー間の計算を行うことができる多次元の世界です。集計された企業データをリアルタイムで分析するユーザーが使用します。OLAPシステムの機能には、ドリルダウン、データのピボット、複素数計算、トレンド分析、およびモデリングが含まれます。

会社間消去 「消去」を参照してください。

会社間照合 アプリケーション内の会社間勘定科目の対の残高を比較するプロセスです。会社間の受取勘定科目は、対応する会社間の支払い勘定科目と比較されます。一致する勘定科目は、組織の連結合計から会社間のトランザクションを消去するために使用されます。

会社間照合レポート 会社間勘定科目の残高を比較して、勘定の収支が合っているかどうかを示すレポートです。

拡張リレーショナル・アクセス リレーショナル・データベースと Essbase 多次元データベースの統合を指します。これにより、すべてのデータがリレーショナル・データベースに保持され、Essbase データベース内の要約レベルのデータにマッピングされます。

確認レベル プロセス管理の確認ステータス・インディケータの1つです。「開始していません」、「第1パス」、「送信済」、「承認済」、「発行済」など、プロセス単位のレベルを示します。

加重 スコアカードの項目に割り当てられた値です。スコアカード全体のスコアの計算において、その項目の相対的な重要性を示します。スコアカードのすべての項目の加重を総計すると100%になります。たとえば、ある製品について新機能を開発する重要性を認めるため、開発者のスコアカード上の New Features Coded のメジャーに Number of Minor Defect Fixes のメジャーよりも大きな加重が割り当てられる可能性があります。

カスケード メンバー値のサブセットに対して複数のレポートを作成するプロセスです。

カスタム・カレンダー システム管理者が作成したカレンダーです。

カスタム次元 ユーザーが作成および定義する次元です。チャンネル、製品、部署、プロジェクト、または地域がカスタム次元になることがあります。

カスタム定義関数(CDF) Java で開発され、MaxL により Essbase の標準計算スクリプト言語に追加された、Essbase 計算関数です。「カスタム定義マクロ」も参照してください。

カスタム定義マクロ(CDM) Essbase のマクロです。Essbase 計算機の関数および専用マクロ関数を使用して記述されます。カスタム定義マクロが使用する Essbase の内部マクロ言語により、計算関数を組み合わせることが可能となり、複数の入力パラメータが処理されます。「カスタム定義関数」も参照してください。

カスタム・プロパティ ユーザーが作成した次元または次元メンバーのプロパティです。

カスタム・レポート 設計レポート・モジュールで作成する複雑なレポートです。コンポーネントの様々な組合せによって構成されます。

カタログ・ペイン アクティブ・セクションで利用可能な要素のリストを表示する領域です。クエリーがアクティブ・セクションの場合はデータベース・テーブルのリストが表示されます。ピボットがアクティブ・セクションの場合は結果列のリストが表示されます。ダッシュボードがアクティブ・セクションの場合は埋込み可能セクションのリスト、グラフィック・ツール、およびコントロール・ツールが表示されます。

カテゴリ データ編成に使用するグループです。例: 月。

株式ベータ 株のリスクを指します。その株の収益と市場利益率の差異により測定され、ベータと呼ばれるインデックスで示されます。たとえば、市場利益率が1%変動するのに伴って株の収益が通常1.2%変動するのであれば、その株のベータ値は1.2です。

カレンダー ユーザー定義の期間、およびその関係です。暦年または会計年度は、Q1、Q2、Q3、およびQ4から構成されます。

為替レート・タイプ 為替レートの識別子です。異なるレートのタイプが使用されるのは、一定期間および年間について複数のレートが存在することがあるためです。従来より、期末時点でのレートを当期の平均レートおよび期末レートとして定義します。その他、履歴レート、予算レート、予測レートなどのレート・タイプがあります。レート・タイプは特定の時点に適用されます。

換算 「通貨換算」を参照してください。

換算レート 「為替レート」を参照してください。

勘定科目タイプ 時間の経過に伴う勘定科目の値のフロー、およびその符号の振る舞いを決定するプロパティです。勘定科目タイプのオプションには、支出、収益、資産、負債、および資本が含まれます。

勘定科目の消去 連結時に連結ファイル内で値がゼロに設定された勘定科目です。

勘定科目のブロック 連結ファイルで勘定科目が入力データを受け入れるプロセスです。ブロックされた勘定科目は加算連結プロセスで値を受け取りません。

関数 Data Relationship Management で、パラメータを受け取り、動的な値を戻す導出プロパティの式の構文要素です。

感嘆符(!) 一連のレポート・コマンドを終了して、データベースからの情報を要求する文字です。レポート・スクリプトは感嘆符を使用して終了する必要があります。レポート・スクリプト内では複数の感嘆符を使用できます。

管理対象サーバー 内蔵された Java 仮想マシン(Java Virtual Machine: JVM)で実行されるアプリケーション・サーバー・プロセスです。

関連勘定科目 メイン勘定科目に関連し、同一のメイン勘定科目番号にグループ化される勘定科目です。勘定科目の構造体では、すべてのメイン勘定科目および関連勘定科目は同一のメイン勘定科目番号にグループ化されます。メイン勘定科目と関連勘定科目は、勘定科目番号の最初の接尾辞により区別されます。

外部でトリガーされるイベント ジョブの実行をスケジュールするための、時間ベースでないイベントです。

外部認証 アプリケーションの外部に格納されたユーザー情報を使用して、Oracle EPM System 製品にログオンすることを指します。ユーザー・アカウントは、EPM System によって管理されますが、パスワード管理およびユーザー認証は、Oracle Internet Directory (OID)または Microsoft Active Directory (MSAD)などの企業向けディレクトリを使用して、外部サービスによって実行されます。

ガジェット EPM のコンテンツを容易に表示し、Reporting and Analysis のコア機能にアクセスできる、軽量で単純な専用アプリケーションです。

期別価額メソッド(PVA) 通貨換算プロセスの1つです。一定期間における期別の為替レート値を適用して通貨を算出します。

基本エンティティ 組織の構造の一番下に位置し、他のエンティティを持たないエンティティです。

基本次元 1つ以上の属性次元に関連付けられている標準次元です。たとえば、製品に香りがあるとすると、Product 次元が Flavors 属性次元の基本次元となります。

基本通貨 日常の業務取引が行われる通貨です。

期末 チャートの日付範囲を調整できる期間です。たとえば、月の期末の場合、当月末までの情報がチャートに表示されます。

キャッシュ データを一時的に保持する、メモリー内のバッファです。

キューブ 3つ以上の次元を含むデータのブロックです。Essbase データベースはキューブです。

キューブ・スキーマ Essbase Studio におけるメジャーおよび階層などのメタデータ要素です。キューブの論理モデルを指します。

キューブ配置 Essbase Studio で、アウトラインを構築してデータを Essbase アプリケーションおよびデータベースにロードするために、モデルのロード・オプションを設定するプロセスです。

兄弟 他の子メンバーと同じ世代で、すぐ上に同じ親を持つ子メンバーです。たとえば、メンバー Florida とメンバー New York はメンバー East の子であり、互いの兄弟です。

共有 Workspace ページ 専用のシステム・フォルダに保管され、組織全体で共有する Workspace ページです。権限を持つユーザーは、共有 Workspace ページの「ナビゲート」メニューからアクセスできます。

共有ストレージ フェイルオーバー・クラスタのすべてのノードに対して使用できる必要のあるデータを含むディスク・セットです。共有ディスクとも呼ばれます。

共有ディスク 「共有ストレージ」を参照してください。

共有メンバー ストレージ・スペースを別の同名メンバーとの間で共有するメンバーです。Essbase アウトラインに複数回現れるメンバーが重複して計算されることを防ぎます。

クエリー・ガバナンス Essbase Integration Server のパラメータまたは Essbase サーバーの構成設定です。データ・ソースに対して実行されるクエリーの時間とサイズを制御します。

行の抑制 欠落値を含む行を除外し、スプレッドシート・レポートからの文字にアンダースコアを付ける設定です。

クラスタ 単一リソースとして動作して、タスクの負荷を共有し、フェイルオーバーのサポートを提供する一連のサーバーまたはデータベースです。システムにおける単一障害点となるサーバーやデータベースを排除します。

クラスタ・サービス システムとしてクラスタ・メンバーの操作を管理するソフトウェアです。クラスタ・サービスを使用すると、一連のリソースやサービスを定義して、クラスタ・メンバー間でのハートビート・メカニズムを監視し、これらのリソースやサービスをできるだけ効率よくかつ透過的に別のクラスタ・メンバーに移動できます。

クラスタ内部接続 ハートビート情報に関するノード障害を検出するためにハードウェア・クラスタで 사용되는プライベート・リンクです。

クラスタ棒グラフ カテゴリを横に並べたグラフです。垂直棒グラフでのみ使用されます。

繰返し 同じバージョンのデータを修正して移行する予算またはプランニング・サイクルのパスです。

クリーン・ブロック 計算スクリプトによってすべての次元が一度に計算された場合、または計算スクリプトで SET CLEARUPDATESTATUS コマンドが使用された場合の、データベース全体の計算が完了しているデータ・ブロックを指します。

クロス集計レポート テーブル・フォーマットでデータの分類および集計を行うレポートです。テーブルのセルには、交差するカテゴリに合致するデータの集計結果が保管されています。たとえば、製品販売情報のクロス集計レポートに、列見出しとして Small や Large などのサイズ属性、行見出しとして Blue や Yellow などの色属性を表示できます。テーブルの中で Large と Blue が交差するセルには、サイズが Large のすべての Blue 製品の総売上が表示されます。

グリッドの POV 行、列、またはページの交差に次元を配置せずに、グリッド上で次元メンバーを指定する手段です。レポート設計者はグリッド・レベルで POV の値を設定し、ユーザーの POV がグリッドに影響を与えないように防ぐことができます。次元に含まれるグリッドの値が1つのとき、その次元は行、列、またはページではなくグリッドの POV に配置します。

グループ 複数のユーザーに同様のアクセス権を割り当てるためのコンテナです。

グローバル・レポート・コマンド 別のグローバル・コマンドに置き換えられるか、またはファイルが終了するまで実行し続けるレポート・スクリプトのコマンドです。

計算結果アイテム データベースやキューブに物理的に保管される列に対して、仮想の列を指します。クエリー実行時にデータベースにより、または Interactive Reporting Studio の「結果」セクションで計算されます。計算結果アイテムは、関数、データ項目、およびダイアログ・ボックスで提供される演算子に基づくデータ計算であり、レポートに含まれたり他のデータの計算に再利用されることがあります。

計算スクリプト データベースの集計方法や集約方法を定義する一連のコマンドです。集計プロセスとは別に、割当てや他の計算ルールを指定するコマンドが計算スクリプトに含まれることもあります。

計算済勘定科目 変更できない計算式を持つ勘定科目です。計算式は、構築中のモデルの勘定科目の整合性を保つために固定されています。たとえば、当期純利益、計算済勘定科目の計算式は Strategic Finance でモデル化されているため、過去実績/予測の期間で変更はできません。

系統データ 割当ての計算後にオプションで生成される追加データです。このデータにより、すべての割当てステップにわたるコストまたは収益のフローについてレポートを作成できます。

系列 異なるメタデータ要素間の関係です。メタデータ要素が他のメタデータ要素からどのように導き出されるかを示し、メタデータ要素を物理ソースまでトレースします。Essbase Studio では、この関係を系列ビューアでグラフィカルに表示できます。「トレースナビリティ」も参照してください。

結合 特定の列または行の共通のコンテンツに基づく2つのリレーショナル・データベース・テーブルまたはトピックの間のリンクです。通常、異なるテーブルまたはトピック内の同一または類似するアイテムの間で結合が起きます。たとえば、Customer テーブルと Orders テーブルで Customer ID の値が同一である場合、Customer テーブル内のレコードが Orders 内のレコードに結合します。

欠落データ(#MISSING) ラベル付けされた場所のデータが存在しないか、値が含まれていないか、データが入力されていないかまたはロードされていないことを示すマーカーです。たとえば、勘定科目に当期ではなく過去または将来の期間のデータが含まれている場合は、欠落データが存在します。

権限 データまたは他のユーザーとグループを管理するために、ユーザーおよびグループに付与されるアクセス・レベルです。

検証 アウトラインに対してビジネス・ルール、レポート・スクリプト、またはパーティション定義をチェックして、チェック対象のオブジェクトが有効であることを確認するプロセスです。

検証ルール データの整合性を強化するために FDM で使用されるルールです。たとえば、FDM では、検証ルールによって、FDM からターゲット・アプリケーションにデータがロードされた後に、特定の条件が満たされていることが保証されます。

限界税率 税引き後の負債コストを計算するために使用する率です。最近計上された所得に適用される税率(所得額に適用される最高の税率区分の税率)を示し、連邦税、州税、および地方税を含みます。課税対象所得と税率区分の現在のレベルに基づいて、限界税率を予測できます。

現地通貨 入力通貨タイプです。入力通貨タイプが指定されていない場合は、現地通貨がエンティティの基本通貨に一致します。

原点 2つの軸の交差です。

子 データベース・アウトライン内で親を持つメンバーです。

高可用性 障害が発生した場合でもアプリケーションが継続してサービスを提供できるようにするシステム属性です。これは、シングル・ポイント障害、フォルト・トレラント・ハードウェアおよびサーバー・クラスタを除去することで実現されます。1つのサーバーで障害が発生すると、処理要求は別のサーバーにルーティングされます。

高機能計算 最後に実行された計算以降に更新されたデータ・ブロックを追跡する計算メソッドです。

交差 多次元データベース内の次元の交差を表すデータの単位です。ワークシートのセルです。

構造ビュー トピックをコンポーネントのデータ項目の単純なリストとして表示します。

構築メソッド データベース・アウトラインを変更するために使用するメソッドの一種です。データ・ソース・ファイルのデータ・フォーマットに基づいて構築メソッドを選択します。

個人の反復タイム・イベント 再利用可能なタイム・イベントです。作成したユーザーのみがアクセスできます。

個人用変数 複雑なメンバー選択の特定の選択ステートメントです。

個人用ページ リポジトリ情報を参照するための個人用ウィンドウです。表示する情報、およびレイアウトと色を選択します。

コミット・アクセス Essbase のトランザクションの処理方法に影響する Essbase カーネルの分離レベルです。コミット・アクセスでは、同時トランザクションは書き込みロックを長期間保持し、予測可能な結果を生成します。

コンテキスト変数 タスクフロー・インスタンスのコンテキストを特定するために、特定のタスクフローに定義される変数です。

コンテンツ リポジトリに保管されたあらゆるタイプのファイルの情報です。

コンテンツ・ブラウザ コンテンツを参照して選択し、Workspace ページに配置するために使用できるコンポーネントです。

コントリビューション 子エンティティから親に追加される値です。それぞれの子は親に対するコントリビューションを持ちます。

コード・ページ 一連のテキスト文字へのビット組合せのマッピングです。コード・ページは、それぞれ異なる文字セットをサポートします。各コンピュータには、ユーザーが必要とする言語の文字セットについてのコード・ページ設定が含まれます。このドキュメントでは、コード・ページは非 Unicode のエンコードのビット組合せに文字をマッピングします。「エンコード方式」も参照してください。

差異 プラン値と実績値などの2つの値の差です。

サイクル・スルー データベース内で複数パスを実行し、同時に計算することを指します。

再構成 URL ユーザーが Workspace にログインしているときに、サブレット構成設定を動的に再ロードするために使用する URL です。

再構築 データベース・インデックス、また場合によってはデータ・ファイルの再生成もしくは再構築を行う操作です。

最新 最新期間として定義されたメンバーからデータ値を取得するために使用される、スプレッドシートのキー・ワードです。

最上位メンバー 次元のアウトラインで、階層ツリーが一番上に位置する次元メンバーです。次元メンバー間に階層の関係がない場合は、ソート順で最初のメンバーを指します。階層の関係がある場合、最上位メンバーの名前が次元名と同一となるのが一般的です。

サイレント応答ファイル インストール管理者が指定する必要のあるデータを提供するファイルです。応答ファイルにより、EPM System インストーラまたは EPM System コンフィグレータを、ユーザー操作またはユーザー入力なしで実行できます。

サブ勘定科目のナンバリング 不連続の整数を使用してサブ勘定科目のナンバリングを行うためのシステムです。

サブスクライブ 項目またはフォルダが更新されるときに自動的に通知を受け取るように、項目またはフォルダにフラグを付けることを指します。

サポート詳細 セルの値を算出した計算および仮定です。

三角換算法 3つ目の共通通貨を使用して1つの通貨から別の通貨に残高を換算する方法です。たとえば、デンマーク・クローネから英国ポンドに換算する場合、残高はクローネからユーロに換算され、その後ユーロからポンドに換算されます。

算出ステータス 一部の値または式の計算が変更されたことを示す集計ステータスです。影響を受けるエンティティについて正しい値を取得するには、再集計する必要があります。

算術演算子 式およびアウトラインでのデータの計算方法を定義する記号です。標準的な算術演算子またはブール演算子が使用されます(+、-、*、/、%など)。

算術データ・ロード データベース内の値に対して演算(たとえば各値に10を加算するなど)を実行するデータ・ロードです。

サンプリング エンティティの特性を判別するためにエンティティの代表的な部分を選択するプロセスです。「メタデータのサンプリング」も参照してください。

サービス ビジネス・アイテムを取得、変更、追加、および削除するためのリソースです(権限付与、認可など)。

サブレット Web サーバーが実行可能なコンパイルされたコードです。

残高勘定科目 特定の時点の符号なしの値を保管する勘定科目の種別です。

式 Data Relationship Management で、プロパティ値を動的に計算する導出プロパティによって使用されるビジネス・ロジックです。

式の保存 データ取得中にワークシート内に保持される、ユーザーが作成した式です。

資産勘定科目 勘定科目の1つです。会社の資産の値を保管します。

支出勘定科目 期別の値と年次累計値を保管する勘定科目です。値が正の場合は、純利益が減ります。

市場リスク割増額 国債よりもリスクの高い投資を投資家に呼びかけるための、安全率に追加して支払われる利回りです。予測される市場利回りから安全率を差し引いて計算されます。この数字が示すモデルは将来の市況に近いものとなる必要があります。

システム抽出 データをアプリケーションのメタデータから ASCII ファイルに転送する機能です。

子孫 データベース・アウトラインで親の下に位置するメンバーです。たとえば、年、四半期および月を含む次元では、メンバー Qtr2 およびメンバー April がメンバー Year の子孫となります。

シナリオ データを分類するための次元です(Actuals、Budget、Forecast1、Forecast2 など)。

支配比率 所属するグループ内でエンティティが受ける支配の程度です。

収益勘定科目 期別の値と年次累計値を格納する勘定科目です。値が正の場合は純利益が増えます。

修飾名 定まったフォーマットのメンバー名です。重複メンバーのアウトラインにおいて、重複メンバー名を区別します([Market].[East].[State].[New York]、[Market].[East].[City].[New York]など)。

集約 集約ストレージ・データベースの値をロール・アップおよび格納するプロセスです。または集約プロセスによって格納された結果を指します。

集約関数 関数の一種です。合計、平均の計算など、データの要約や分析を実行します。

集約スクリプト 集約を構築するための集約ビューの選択を定義するファイルです。集約ストレージ・データベースのみで使用されます。

集約ストレージ・データベース 潜在的に大きな多数の次元に分類される疎に分散した大規模なデータをサポートするように設計されたデータベースのストレージ・モデルです。上位のメンバーと式は動的に計算され、選択されたデータ値は集約、保管されます。通常、集約の合計所要時間が改善されます。

集約制約 集約要求ライン・アイテムや集約メタトピック・アイテムに設定する制約です。

集約セル 複数のセルから構成されるセルです。たとえば、Children(Year)を使用するデータ・セルは、Quarter 1、Quarter 2、Quarter 3、および Quarter 4 のデータを含む 4 つのセルに展開されます。

集約ビュー 各次元内のメンバーのレベルに基づく集約セルの集合です。計算時間を短縮するため、値は事前に集約されて集約ビューとして保管されています。取得は集約ビューの合計から開始され、合計に追加されます。

出資比率 あるエンティティが、その親によって所有されている割合です。

手動ステージ ユーザーが操作する必要があるステージです。

障害回復 本番サイトでの自然災害による停止や計画外停止に対する保護対策機能です。地理的に離れたスタンバイ・サイトへのアプリケーションやデータの回復ストラテジを使用します。

消去 組織内のエンティティ間での取引をゼロに設定(消去)するプロセスです。

消去済勘定科目 ファイルに表示されない勘定科目です。

詳細チャート 要約チャートで、詳細な情報を提供するチャートです。詳細チャートは要約チャートの下にある「調査」セクションに列で表示されます。要約チャートに円グラフが表示される場合、その下の詳細チャートには円の各区分が示されます。

使用済ブロック 最後に計算された後に変更されたセルを含むデータ・ブロックです。子ブロックが使用済である(つまり更新されている)場合、上位のブロックにも使用済のマークが付けられます。

シリアル計算 デフォルト計算設定です。1つの計算を複数のタスクに分割して、一度に1つのタスクを計算します。

仕訳(JE) シナリオと期間の勘定科目残高の借方または貸方に計上する調整の集合です。

シングル・サインオン(SSO) 一度ログオンすると、認証のための情報を再度入力することなく複数のアプリケーションにアクセスできる機能です。

シングル・ポイント障害 障害が発生した場合にユーザーが通常機能にアクセスできなくなるシステムのコンポーネントです。

信頼できるユーザー 認証されたユーザーです。

時間次元 データが示す期間です(会計期間、暦時間など)。

軸 1)測定と分類に使用されるグラフィックを貫通する直線です; 2)多次元のデータを整理および関連付けるために使用されるレポートのアスペクトです(フィルタ、ページ、行、列など)。たとえば、Simple Basic でデータ・クエリーを実行する場合、軸では Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 の値の列を定義できます。Market と Product の階層による合計が行データとして取得されます。

次元 ビジネス・データを整理して値の抽出や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、次元には関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、Year 次元は多くの場合四半期、月などの期間の各単位ごとのメンバーが含まれます。

次元間の無関係性 次元が他の次元と交差ししない状況を指します。次元に含まれるデータは、交差ししない次元からアクセスできないため、交差ししない次元は無関係となります。

次元構築 Essbase アウトラインに次元およびメンバーを追加するプロセスです。

次元構築のルール データ・ロードのルールに似た仕様です。Essbase でアウトラインを変更するために使用されます。変更は外部データ・ソース・ファイルのデータに基づきます。

次元性 MaxL DML において、セットで示された次元およびその順序です。たとえば、{(West, Feb), (East, Mar)} というセットの場合は、含まれている 2 つのタプルはいずれも次元(Region, Year)を反映しているため、同一の次元性であることとなります。

次元タイプ 定義済の機能を使用可能にする次元のプロパティです。時間のタグが付けられた次元は、定義済のカレンダー機能を持ちます。

次元タブ 「ピボット」セクションで、行と列の間でデータのピボットを実行するためのタブです。

次元テーブル 1)特定のビジネス・プロセスに関する多数の属性を含むテーブルです; 2)Essbase 統合サービスでは、Essbase の潜在的な次元を定義する 1 つ以上のリレーショナル・テーブルのための、OLAP モデルのコンテナを指します。

事前計算 ユーザーが取得する前にデータベースで計算を実行することです。

持続性 Essbase の操作や設定に対する継続的または長期的な影響です。たとえば、ユーザー名やパスワードの有効性について、Essbase 管理者がその持続性を制限することがあります。

実行時プロンプト ビジネス・ルールが実行される前にユーザーが入力または選択する変数です。

実績の頻度 日付のセットを作成して結果を収集および表示するために使用されるアルゴリズムです。

自動逆仕訳 次期に逆仕訳する調整を入力するための仕訳です。

自動ステージ ユーザーの操作を必要としないステージです(データ・ロードなど)。

従業員 特定のビジネス・オブジェクトに対して責任を負う(または関与する)ユーザーです。従業員は組織に勤めている必要はありません(コンサルタントなど)。従業員は、認証のためにユーザー・アカウントに関連付けられている必要があります。

重複する別名 別名テーブルに複数存在し、データベース・アウトラインの複数メンバーに関連付けられている可能性のある名前です。重複する別名は、重複メンバーのアウトラインでのみ使用できます。

重複メンバーのアウトライン 重複メンバー名を格納しているデータベース・アウトラインです。

重複メンバー名 データベース内に異なるメンバーを表して重複して存在する同一のメンバー名です。たとえば、ニューヨーク州を示すメンバーとニューヨーク市を示すメンバーが存在する場合、データベースに New York という名前のメンバーが 2 つ含まれることがあります。データベースに New York という名前のメンバーが 2 つ含まれることがあります。

重要事業領域(CBA) 部門、地域、工場、コスト・センター、プロフィット・センター、プロジェクト・チーム、またはプロセスに編成された個人またはグループです。責任チームまたはビジネス領域とも呼ばれます。

重要成功要因(CSF) 戦略目標を達成するために確立および維持する必要がある能力です。戦略目標または重要プロセスにより所有され、1 つ以上のアクションに対する親となります。

上位レベル・ブロック 少なくとも 1 つの疎メンバーが親レベルのメンバーになっているデータ・ブロックです。

冗長データ 重複データ・ブロックです。Essbase で更新されたブロックがコミットされるまで、取引の間保持されます。

ジョブ 出力生成のために起動できる特殊なプロパティを持つドキュメントです。ジョブには Interactive Reporting、SQR Production Reporting、または汎用ドキュメントを含めることができます。

ジョブの出力 ジョブの実行によって生成されたファイルやレポートです。

垂直アプリケーション・サーバー・クラスタ 複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスが同一のマシンにあるクラスタです。

水平アプリケーション・サーバー・クラスタ アプリケーション・サーバー・インスタンスが異なるマシンにあるクラスタです。

数値属性範囲 基本次元メンバーを関連付けるために使用される機能です。メンバーは個別の数値を含み、値の範囲を示す属性を持ちます。たとえば、顧客を年齢別に分類する場合、Age Group 属性次元に 0-20、21-40、41-60、および 61-80 という年齢範囲に該当するメンバーを含めることができます。各 Customer 次元メンバーは Age Group 範囲に関連付けられます。データを取得する際は、個別の年齢の値ではなく年齢範囲に基づいて処理されます。

スキーマ リレーショナル・データベースにおける、データおよびデータ間の関連を表す論理モデルです。

スクレーピング データ・ソースを検査して、最も基本的なメタデータ要素を得ることを指します。「イントロスペクション」と対比してください。

スケールリング スケールリングによって値の表示方法を判別します(整数、十単位、百単位、千単位、百万単位など)。

スコア ターゲットを達成するレベルです。通常はターゲットのパーセンテージとして表されます。

スコアカード 目標を達成する上での、従業員、戦略要素、または責任要素の進行状況を示すビジネス・オブジェクトです。スコアカードに追加された各メジャーおよび子スコアカードについて収集されるデータに基づいて、進行状況が確認されます。

スコープ Essbase の操作または設定により包含されるデータ領域です(セキュリティ設定により影響を受けるデータ領域など)。通常、スコープには粒度が 3 レベルあり、上位レベルが下位レベルを包含します。これらのレベルは上位から下位の順で、システム全体(Essbase サーバー)、Essbase サーバー上のアプリケーション、Essbase サーバー・アプリケーション内のデータベースとなります。「持続性」も参照してください。

ステージ 1)通常は個別のユーザーにより実行される、タスクフロー内の 1 つの論理ステップを形成するタスクの説明です。ステージには手動と自動の 2 つのタイプがあります; 2)Profitability で、組織内の割当てプロセスのステップを表すモデル内の論理区分です。

ステージ・アクション 自動ステージで、ステージを実行するために呼び出されたアクションです。

ステージ後割当て 割当てモデルにおける割当てです。後に続くモデル・ステージの場所に割り当てられます。

ステージ内割当て 同じステージ内のオブジェクトに対する財務フローの割当てです。

ステージング・テーブル 特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1 つ以上の RDBMS のスナップショット(再構築されたバージョン)です。

ステージング領域 特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1 つ以上の RDBMS のスナップショット(再構築されたバージョン)です。

ステータス・バー コマンド、勘定科目、およびデータ・ファイルの現在のステータスに関する有用な情報が表示される、画面下部のバーです。

スナップショット 特定の時点の読取り専用データです。

スポットライタ 選択された条件に基づくカラー・コーディングを可能にするツールです。

スマート・カット URL フォームのリポジトリ項目へのリンクです。

スマート・タグ Microsoft Office アプリケーションでのキーワードです。スマート・タグのメニューから利用可能な定義済アクションに関連付けられています。Oracle EPM System 製品でも、スマート・タグを使用して Reporting and Analysis のコンテンツのインポートや Financial Management および Essbase の機能へのアクセスが可能です。

スーパーバイザ サーバーのすべてのアプリケーション、データベース、関連ファイル、セキュリティ機構にフル・アクセスできるユーザーです。

ズームチャート チャートを拡大することにより詳細情報を表示するツールです。ズームチャートにより、チャートに表示されるメトリックについて数値情報を詳細に表示できます。

精度 数値に表示される小数点以下の桁数です。

製品 Shared Services における、Planning や Performance Scorecard などのアプリケーション・タイプです。

セカンダリ・メジャー プライマリ・メジャーよりも優先度の低いメジャーです。セカンダリ・メジャーにはパフォーマンス・レポートがありませんが、スコアカードで使用したり、次元メジャーのテンプレートを作成するために使用できます。

責任マップ 組織内の責任チーム(重要事業領域とも呼ばれます)の責任、報告、および依存関係の構造を視覚的、階層的に示します。

セキュリティ・エージェント Web アクセス管理プロバイダ(Oracle Access Manager、Oracle Single Sign-On、CA SiteMinder など)です。企業の Web リソースを保護します。

セキュリティ・プラットフォーム Oracle EPM System 製品で外部認証とシングル・サインオン機能を使用するためのフレームワークです。

世代 データベースでのメンバー関係を定義する階層ツリー内のレイヤーです。世代は、次元の最上位のメンバー(世代 1)から子メンバーへと 1 世代ずつ下に配置されていきます。一意の世代名を使用すると、階層ツリー内のレイヤーを特定できます。

設計レポート コンポーネント・ライブラリを使用してカスタム・レポートを作成するための Web Analysis Studio のインタフェースです。

接続ファイル 「Interactive Reporting 接続ファイル (.oce)」を参照してください

セル 1)多次元データベースの次元の交差を表すデータ値です。ワークシート上の行および列の交差を指します;2)管理ドメインに属するノードの論理グループです。

セル・ノート Essbase データベースでセルに付けられるテキスト注釈です。セル・ノートは LRO の一種です。

選択リスト レポート・デザイナーがレポートの視点(POV)を定義する際に各次元に指定するメンバーのリストです。定義されたメンバー・リストに指定されたメンバーを選択するか、または動的リストの関数に定義された条件に一致するメンバーを選択するだけで、選択リストを使用して次元の POV を変更できます。

戦略マップ 上位レベルのミッションおよびビジョンのステートメントを、組織が、構成要素である下位レベルの戦略的達成目標に組入れる方法を示します。

戦略目標(SO) 測定可能な結果によって定義された長期目標です。各戦略目標は、アプリケーション内の 1 つのパーспекティブに関連付けられ、1 つの親(エンティティ)を持ち、重要成功要因または他の戦略目的の親になります。

税金の初期残高 Strategic Finance では、損失の初期残高、収益の初期残高、および納税の初期残高のエントリーは、Strategic Finance の最初の期間に先立つ期間に発生していることを前提とします。

関連サブクエリー 親クエリーの各行で一度評価されるサブクエリーです。サブクエリーのトピック・アイテムを親クエリーのトピックに結合することにより作成されます。

相互割当て 財務フローの割当ての一種です。宛先の 1 つとしてソースが含まれます。

組織 各エンティティ、およびその関係を定義するエンティティの階層です。

祖先 その下にメンバーを含む分岐メンバーです。たとえば、メンバー Qtr2 とメンバー 2006 はメンバー April の祖先です。

属性 次元メンバーの特性です。たとえば、Employee 次元のメンバーは名前、年齢、住所といった属性を持ち、Product 次元のメンバーはサイズ、味などの複数の属性を持つ可能性があります。

属性計算次元 メンバーのグループに対して、合計、カウント、平均、最小、および最大を計算するシステム定義の次元です。この次元は動的に計算され、データベース・アウトラインでは表示されません。たとえば、メンバー Avg を使用すると、製品 Red についてニューヨークでの 1 月の平均売上値を計算できます。

属性次元 次元の一種です。次元のメンバーの属性や特質に基づいて分析できます。

属性タイプ 様々な関数(データのグループ化、選択、または計算)を使用可能にするためのテキスト、数値、ブール値、日付、またはリンク属性タイプです。たとえば、Ounces 属性次元は数値タイプを持つので、各製品の属性として指定されるオンス数を使用して当該製品のオンス当たりの収益を計算できます。

属性の関連付け データベース・アウトラインでの関係です。これにより、属性次元のメンバーが基本次元のメンバーの特性を表します。たとえば、製品 100-10 がグレープ味である場合、製品 100-10 は Flavor 属性の関連付けがグレープになります。したがって、Product 次元のメンバー 100-10 は Flavor 属性次元のメンバー Grape に関連付けられることになります。

属性レポート 基本次元メンバーの属性に基づくレポート作成プロセスです。「基本次元」も参照してください。

貸借一致の仕訳 借方の合計と貸方の合計が等しい仕訳です。

対称型マルチプロセッシング(SMP) マルチプロセッシングとマルチスレッディングを使用可能にするサーバーのアーキテクチャです。多数のユーザーが単一のインスタンスに同時に接続した場合でも、パフォーマンスが大きく低下することはありません。

対称トポロジ 本番サイトの層とスタンバイ・サイトの層で同一の Oracle Fusion Middleware の障害回復構成です。対称トポロジでは、本番サイトとスタンバイ・サイトのホスト、ロード・バランサ、インスタンスおよびアプリケーションの数は同じです。両方のサイトで同じポートが使用されます。システムは同一に構成され、アプリケーションは同じデータにアクセスします。

タイトル・バー Strategic Finance 名、ファイル名、およびシナリオ名のバージョン・ボックスを表示するバーです。

タイム・イベント ジョブの実行をトリガーします。

タイム・スケール 指定された期間別(毎月、四半期ごとなど)にメトリックを表示するスケールです。

タイムライン・ビュー 特定の場所について、完了したプロセス・フロー・ステップの日時を表示するための EDM の機能です。

多次元データベース 3 つ以上の次元でデータを整理、格納、および参照する方法です。次元のセットが交差するポイントが個別の値となります。「リレーショナル・データベース」と対比してください。

タスクフロー ビジネス・プロセスの自動化を指します。手続きのルールに従って、あるタスクフロー参加者から別の参加者にタスクが渡されます。

タスクフロー・インスタンス タスクフローの単一のインスタンスです。タスクフローの状態と関連データが含まれます。

タスクフロー管理システム タスクフローを定義および作成し、その実行を管理するシステムです。定義付け、ユーザーまたはアプリケーションのやりとり、およびアプリケーションの実行可能ファイルが含まれます。

タスクフロー参加者 手動ステージおよび自動ステージの両方について、タスクフローのステージのインスタンスに関連付けられているタスクを実行するリソースです。

タスクフロー定義 タスクフロー管理システムのビジネス・プロセスです。ステージとステージ間の関係のネットワークから構成され、タスクフローの開始と終了を示す基準、および個別のステージに関する情報(参加者、関連アプリケーション、関連アクティビティなど)が含まれます。

タスク・リスト 特定のユーザーについて、タスクの詳細ステータスを示すリストです。

タブ Strategic Finance で、勘定科目とレポートのナビゲーションを行うことができるビューです。

タプル MDX 構文の要素です。セルは、各次元からのメンバーの交差として参照されます。次元が削除されている場合、最上位のメンバーが示されます。たとえば、(Jan)、(Jan, Sales)、([Jan], [Sales], [Cola], [Texas], [Actual]) といったタプルがあります。

単項演算子 アウトラインのメンバーに関連付けられている算術インディケータ(+、-、*、/、%)です。単項演算子では、データベースのロールアップ中のメンバーの計算方法が指定されます。

代替階層 共有メンバーの階層です。代替階層はデータベース・アウトラインの既存の階層に基づきますが、次元に代替レベルを持ちます。代替階層により、異なる視点(POV)から同一データを表示できます。

ダッシュボード 業務の要約を対話的に示すメトリックと指標の集まりです。ダッシュボードにより分析アプリケーションを構築して配置できます。

置換 データ・ロードのオプションの 1 つです。データ・ロード・ファイルに指定された期間のすべての勘定科目からの既存の値を消去し、データ・ロード・ファイルからの値をロードします。ロード・ファイルに勘定科目が指定されていない場合、指定された期間に該当する値が消去されます。

チャート・テンプレート ワークスペース・チャートに表示するメトリックを定義するテンプレートです。

抽出コマンド Essbase レポート作成コマンドの1つです。データベースから抽出される RAW データの選択、向き、グループ分け、および配列を処理します。小なり記号(<)から始まるコマンドです。

調査 「ドリルスルー」を参照してください。

調整 「仕訳」を参照してください。

調整勘定科目 会社間勘定科目の消去プロセスで均衡しない差額が保管される勘定科目です。

直接レート 為替レート・テーブルに入力する通貨レートです。直接レートは通貨換算に使用されます。たとえば、残高を日本円から米ドルに変換する場合、変換元通貨を日本円、変換先通貨を米ドルとして、為替レート・テーブルに期間またはシナリオのレートを入力します。

通貨換算 データベースの通貨の値を別の通貨に変換するプロセスです。たとえば、1米ドルをユーロに変換するには、ドルを為替レート(たとえば、0.923702)を乗じます(1*0.923702)。変換後のユーロの額は0.92になります。

通貨の上書き 入力期間に対して選択した入力メソッドを上書きして、デフォルトの通貨/アイテムとして該当期間の値を入力できる機能です。入力メソッドを上書きするには、数値の前または後にシャープ(#)を入力します。

通貨パーティション アプリケーションでの定義に従って、基本通貨から現地通貨メンバーを隔離する次元タイプです。通貨タイプ(実績、予算、予測など)を特定します。

通常仕訳 特定の期間に一度かぎりの調整を入力するための機能です。通常仕訳は、貸借一致、エンティティごとに貸借一致、貸借不一致のいずれかになります。

定義済ドリル・パス データ・モデルでの定義に従って次の詳細レベルにドリルするために使用されるパスです。

適応状態 Interactive Reporting Web Client の権限レベルです。

テキスト・メジャー Essbase では、メジャーが示されている次元で Text としてタグ付けされたメンバーを指します。セルの値は定義済テキストとして表示されます。たとえば、Satisfaction Index というテキスト・メジャーについては、Low、Medium、および High という値を含めることがあります。「型付きメジャー」、「テキスト・リスト」、および「導出テキスト・メジャー」も参照してください。

デフォルト通貨単位 データの単位スケールです。たとえば、千単位で分析を定義するように選択して10を入力すると、10,000 と解釈されます。

データ関数 データを集約する関数です。データの平均、最大値、カウントを求めたり、他の統計値によりデータのグループを集計します。

データ・キャッシュ 非圧縮データ・ブロックを保持するメモリー内のバッファです。

データ・セル 「セル」を参照してください。

データ値 「セル」を参照してください。

「データなし」ステータス 集計ステータスの1つです。特定の期間と勘定科目のデータがこのエンティティに含まれていないことを示します。

データ・ファイル・キャッシュ 圧縮データ(PAG)ファイルを保持する、メモリー内のバッファです。

データ・フォーム Web ブラウザなどのインタフェースからデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部の次元メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。

データベース接続 データ・ソースへの接続に使用する定義とプロパティを保管し、データベース参照を移動可能にして広く使用できるようにするファイルです。

データ・マイニング Essbase データベースを検索して、大量のデータの中から隠れた関係やパターンを見つけるプロセスです。

データ・モデル データベース・テーブルのサブセットを示します。

データ・ロック 指定された基準(期間、シナリオなど)に従ってデータの変更を防ぐ機能です。

データ・ロード位置 FDM で、ソース・データをターゲット・システムに送信する報告単位です。通常、ターゲット・システムにロードされる各ソース・ファイルに対して FDM のデータ・ロード位置が 1 つあります。

データ・ロードのルール テキストベース・ファイル、スプレッドシート、またはリレーショナル・データ・セットからのデータをデータベースにロードする方法を判別する一連の基準です。

透過パーティション ローカルのデータベースの一部であるかのように、リモート・データベースのデータにアクセスして変更できるようにする共有パーティションです。

透過ログイン ログイン画面を起動せずに、認証されたユーザーをログインさせるプロセスです。

統合 Shared Services を使用して Oracle Hyperion アプリケーションでデータを移動するために実行されるプロセスです。データ統合の定義によりソース・アプリケーションと宛先アプリケーションの間でのデータの移動が指定され、データの動きのグループ化、順序付けおよびスケジュールが決定されます。

統制グループ 証明書および評価の情報を維持および整理するために FDM で使用されるグループです。サーベンス・オクスリ (Sarbanes-Oxley) 法の規定に準拠する上で特に役立ちます。

時系列レポート作成 カレンダーの日付(年、四半期、月、週など)に基づくデータのレポート作成プロセスです。

トップ・ラベルとサイド・ラベル 列と行の見出しです。ピボット・レポートの上部とサイドにそれぞれ表示されます。

トラフィック・ライト 2つの次元メンバーの比較、または一定の制限値に基づいて、レポートのセルまたはピンを色分けする機能です。

トリガー ユーザーが指定した基準に従ってデータを監視するための、Essbase の機能の 1 つです。基準に一致すると、Essbase はユーザーまたはシステム管理者にアラートを送信します。

トレーサビリティ メタデータ要素を物理ソースまで追跡する機能です。たとえば Essbase Studio の場合、キューブ・スキーマをそれ自体の階層およびメジャー階層から次元要素、日付/時間要素、メジャー、そして最終的には物理ソースまで追跡できます。「系列」も参照してください。

トレース・レベル ログ・ファイルで取得された詳細のレベルです。

トークン 外部認証システム上の 1 つの有効なユーザーまたはグループの暗号化された ID です。

トースト・メッセージ 画面右下の隅に表示されるメッセージです。

同期 Shared Services とアプリケーション・モデルの同期です。

同期済 モデルの最新バージョンがアプリケーションと Shared Services の両方に存在する状態を指します。「モデル」も参照してください。

導出テキスト・メジャー Essbase Studio で、範囲として表現された定義済ルールによって管理される値を持つテキスト・メジャーです。たとえば、Sales メジャーに基づき、High、Medium、および Low という値を含む Sales Performance Index という導出テキスト・メジャーの場合、対応する売上が該当する範囲に応じて High、Medium、および Low が表示されるように定義されます。「テキスト・メジャー」も参照してください。

動的階層 集約ストレージ・データベースのアウトラインに限定して、取得時に値が計算されるメンバーの階層です。

動的計算 Essbase で、動的計算メンバー、または動的計算および保管メンバーとしてタグ付けされているメンバーについてデータを取得する場合にのみ実行される計算です。メンバーの値は、バッチ計算で事前に計算されるのではなく、取得時に計算されます。

動的計算および保管メンバー ブロック・ストレージ・アウトラインで、値を最初に取得したときにのみ計算が行われるメンバーです。計算された値はデータベースに保管され、2 回目以降の取得では計算を実行する必要がありません。

動的計算メンバー ブロック・ストレージ・アウトラインで、取得時にのみ計算が行われるメンバーです。取得要求の処理が完了すると、計算された値は破棄されます。

動的参照 データ・ソース内のヘッダー・レコードを指すルール・ファイル内のポインタです。

動的時系列 ブロック・ストレージ・データベースで、期間累計のレポート作成を実行するプロセスです。

動的ビュー勘定科目 勘定科目の種別の1つです。勘定科目の値は、表示されているデータから動的に計算されます。

動的メンバー・リスト システムにより作成される名前付きメンバー・セットです。ユーザーが定義した基準が使用されます。アプリケーションでリストが参照されるとき、リストは自動的にリフレッシュされます。次元メンバーの増減に応じて基準が自動的にリストに適用され、変更内容が反映されます。

動的レポート レポートを実行するときに更新されるデータを含むレポートです。

ドメイン データ・マイニングにおいて、データ内での移動の範囲を表す変数です。

ドライバ Profitability and Cost Management で、ドライバを使用する複数ソース間の数学的關係、およびこれらのソースがコストや収益を割り当てる宛先を示す、割当て方法の一種です。Business Modeling については、「コスト・ドライバ」および「アクティビティ・ドライバ」も参照してください。

ドリルスルー あるデータ・ソースの値から別のソースの対応するデータに移動することです。

ドリルダウン 次元の階層を使用してクエリー結果セット内をナビゲートすることです。ドリルダウンにより、ユーザーのパーспекティブが集約データから詳細に移ります。たとえば、ドリルダウンにより年と四半期の階層関係、または四半期と月の階層関係が明らかになります。

名前付きセット MaxL DML で、MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションに定義された論理を使用するセットです。名前付きセットはクエリー内で複数回参照することが可能です。

入力データ 計算されるのではなくソースからロードされるデータです。

認証 安全対策としての ID の確認です。一般に、認証はユーザー名およびパスワードに基づきます。パスワードおよびデジタル・シグネチャは認証のフォームです。

認証サービス 単一の認証システムを管理するコア・サービスです。

ネイティブ認証 サーバーまたはアプリケーション内で、ユーザー名とパスワードを認証するプロセスです。

ネスト列見出し 複数の次元からのデータを表示するレポート列の列見出しのフォーマットです。たとえば、Year と Scenario のメンバーが含まれる列見出しはネスト列です。ネスト列見出しでは、見出しの一番上の行の Q1(Year 次元)が、見出しの一番下の行の Actual および Budget(Scenario 次元)で修飾されません。

ハイパーテキスト・マークアップ言語(HTML) Web ブラウザでのデータ表示を指定するプログラミング言語です。

ハイパーリンク ファイル、Web ページまたはイントラネット HTML ページへのリンクです。

ハイブリッド分析 リレーショナル・データベースに保管された下位のデータを、Essbase に保管された要約レベルのデータにマッピングする分析です。リレーショナル・システムの大規模スケーラビリティと多次元データを組み合わせます。

反復タイム・イベント ジョブの実行開始点と実行頻度を指定するイベントです。

反復テンプレート 各期間に対して同一の調整を行うための仕訳テンプレートです。

汎用ジョブ SQR Production Reporting または Interactive Reporting 以外のジョブを指します。

凡例ボックス 次元のデータ・カテゴリを特定するためのラベルを含むボックスです。

ハードウェア・クラスタ ネットワーク・サービス(たとえば IP アドレス)やアプリケーション・サービス(データベースや Web サーバーなど)のシングル・ビューを、これらのサービスのクライアントに提供するコンピュータの集合です。ハードウェア・クラスタの各ノードは、独自のプロセスを実行するスタンドアロン・サーバーです。これらのプロセスは互いに通信して、連携してアプリケーション、システム・リソース、データをユーザーに提供する1つのシステムのようなものを形成します。

バックアップ アプリケーション・インスタンスの複製コピーです。

バッチ POV ユーザーの POV において、バッチに含まれる各レポートおよびブックのすべての次元の集合です。バッチのスケジュールを立てる際は、バッチ POV で選択されたメンバーを設定できます。

バッチ計算 データベースにおいてバッチで実行される計算です(計算スクリプト、すべてのデータベース計算など)。動的計算はバッチ計算とはみなされません。

バッチ処理モード サーバー管理や診断のルーチン・タスクを自動化するために使用できるバッチやスクリプト・ファイルを記述するために、ESSCMD を使用するメソッドです。ESSCMD スクリプト・ファイルは複数のコマンドを実行でき、オペレーティング・システムのコマンド・ラインから実行したり、オペレーティング・システムのバッチ・ファイルから実行したりすることが可能です。バッチ・ファイルを使用すると、複数の ESSCMD スクリプトを呼び出したり、ESSCMD の複数インスタンスを実行したりできます。

バッチ・ファイル 複数の ESSCMD スクリプトを呼び出して複数の ESSCMD セッションを実行できるオペレーティング・システム・ファイルです。Windows システムの場合、バッチ・ファイルには BAT というファイル拡張子が付けられます。UNIX の場合、バッチ・ファイルはシェル・スクリプトとして記述されます。

バッチ・ローダー 複数ファイルの処理を可能にする FDM コンポーネントです。

バージョン データのシナリオのコンテキスト内で使用される、起こりうる結果です。たとえば、Budget - Best Case と Budget - Worst Case では、Budget がシナリオであり、Best Case と Worst Case がバージョンです。

パターン照合 条件として入力されるアイテムの一部またはすべての文字と値を照合する機能です。欠落文字は、疑問符(?)またはアスタリスク(*)などのワイルドカード値で表すことができます。たとえば、Find all instances of apple では apple が戻されるのに対して、Find all instances of apple*では apple、applesauce、applecranberry などが戻されます。

パフォーマンス・インディケータ ユーザーが指定した範囲に基づくメジャーおよびスコアカード・パフォーマンスを示すために使用されるイメージ・ファイルです。ステータス記号とも呼ばれます。デフォルト・パフォーマンス・インディケータを使用することもできますが、無制限に独自のパフォーマンス・インディケータを作成することも可能です。

パブリック・ジョブ・パラメータ 管理者が作成する再利用可能な名前付きジョブ・パラメータです。必要なアクセス権を持つユーザーがアクセスできます。

パブリック反復タイム・イベント 管理者が作成する再利用可能なタイム・イベントです。アクセス・コントロール・システムからアクセスできます。

パレット JASC に準拠し、.PAL 拡張子を持つファイルです。各パレットには相互に補完し合う 16 色が含まれ、ダッシュボードの色要素の設定に使用することが可能です。

パースペクティブ スコアカードのメジャーやアプリケーションにおける戦略目標をグループ化するために使用されるカテゴリです。パースペクティブにより、主要な利害関係者(顧客、従業員、株主、金融関係者など)またはキー・コンピテンシ領域(時間、コスト、品質など)を示すことができます。

パーティション化 データ・モデルの間で共有またはリンクされるデータの領域を定義するプロセスです。パーティション化は Essbase アプリケーションのパフォーマンスとスケーラビリティに影響することがあります。

パーティション領域 データベース内のサブ・キューブです。パーティションは、データベースの一部からの 1 つ以上のセル領域から構成されます。複製パーティションおよび透過パーティションの場合、2 つのパーティションが同じ形状となるために、領域内のセルの数がデータ・ソースとターゲットで同一となる必要があります。データ・ソース領域に 18 個のセルが含まれる場合、データ・ターゲット領域にも対応する 18 個のセルが含まれている必要があります。

非アクティブ・グループ 管理者によりシステムへのアクセスが非アクティブにされているグループです。

「非アクティブ」ステータス エンティティの当期の連結が非アクティブ化されていることを示すステータスです。

非アクティブ・ユーザー 管理者によりアカウントが非アクティブ化されているユーザーです。

非次元モデル Shared Services のモデル・タイプの 1 つです。セキュリティ・ファイル、メンバー・リスト、計算スクリプト、Web フォームなどのアプリケーション・オブジェクトが含まれます。

非対称トポロジ 本番サイトの層とスタンバイ・サイトの層で異なる Oracle Fusion Middleware の障害回復構成です。たとえば、非対称トポロジでは、スタンバイ・サイトのホストとインスタンスを本番サイトより少なくすることができます。

日付メジャー Essbase で、メジャーが示されている次元で日付のタグが付けられているメンバーです。セルの値はフォーマット済の日付として表示されます。メジャーとしての日付は時間次元を使用して示すことが困難なタイプの分析に役立つことがあります。たとえば、一連の固定資産の取得日をアプリケーションで追跡する必要がある場合、取得日の範囲が実現可能な時間次元モデリングの範囲を超えて長期にわたってしまうことがあります。「型付きメジャー」も参照してください。

表示タイプ リポジトリに保存された 3 種類の Web Analysis フォーマット(スプレッドシート、チャート、ピンボード)のいずれかを指します。

標準仕訳テンプレート 各期間に共通する調整を転記するために使用する仕訳の機能です。たとえば、共通する勘定科目 ID、エンティティ ID、または金額を含む標準テンプレートを作成すると、これを多数の通常仕訳の基準として使用できます。

標準次元 属性次元以外の次元です。

ビジネス・プロセス 集散的にビジネス上の目標を達成するための一連のアクティビティです。

ビジネス・ルール 期待される一連の結果値を生成するためにアプリケーション内に作成される論理式または式です。

ビジュアル・キュー 特定のデータ値タイプをハイライトする、フォントや色などのフォーマットが設定されたスタイルです。データ値は、次元メンバー、親メンバー、子メンバー、共有メンバー、動的計算、式を含むメンバー、読取り専用データ・セル、読取りおよび書込みデータ・セル、またはリンク・オブジェクトのいずれかになります。

ビュー 年次累計または期別のデータの表示です。

ピボット 取得したデータのパースペクティブを変更します。Essbase では、まず次元が取得され、データが行に展開されます。その後、データのピボット(並べ替え)を行うことにより、異なる視点を得ることができます。

ピン ピンボードと呼ばれるグラフィック・レポート上に配置される対話型アイコンです。ピンは動的です。ピンは、基盤となるデータ値や分析ツールの基準に基づいて、イメージやトラフィック・ライトの色を変更できます。

ピンボード 3 種類のデータ・オブジェクトの表示タイプの 1 つです。ピンボードは、背景およびピンと呼ばれる対話型アイコンから成るグラフィックです。ピンボードを使用するにはトラフィック・ライトを定義する必要があります。

ファイルの区切り文字 データ・ソース内のフィールドを区切る文字です(カンマ、タブなど)。

ファクト・テーブル スター結合スキーマの中心のテーブルです。外部キー、および次元テーブルから取得した要素により特徴付けられます。通常、このテーブルにはスキーマの他のすべてのテーブルに関連する数値データが含まれます。

フィルタ データ・セットで、特定の基準に従って値を制限する制約です。たとえば、特定のテーブル、メタデータ、または値を除外したり、アクセスを制御したりする場合に使用されます。

フェイルオーバー プライマリ・データベース、サーバーまたはネットワークに障害が発生したり、これらがシャットダウンしたりする場合に、冗長性のあるスタンバイ・データベース、サーバーまたはネットワークに自動的に切り替える機能です。フェイルオーバー用にクラスタリングされているシステムは、サーバーの冗長性や共有ディスクなどのフォルト・トレラント・ハードウェアにより、高可用性およびフォルト・トレランスを実現します。

フォーマット文字列 1)Essbase では、セルの値の表示を変換する方法です;2)Data Relationship Management では、プロパティ値を戻す際のフォーマットを示すフォーマットまたはフォーマット済日付導出プロパティのパラメータです。

復元 データベースが破損または破壊された場合にデータおよび構造の情報を再ロードする操作です。通常、データベースをシャット・ダウンおよび再起動した後で実行されます。

複製パーティション パーティション・マネージャにより定義されるデータベースの一部です。あるサイトで管理されるデータの更新を別のサイトで保管されているデータのコピーに伝播するために使用されます。ユーザーは、ローカルのデータベースと同じようにデータにアクセスできます。

負債勘定科目 一定時点における会社の負債残高を保管する勘定科目タイプです。例として、未払費用、買掛金勘定、長期借入金などがあります。

フッター レポート・ページ下部に表示されるテキストまたはイメージです。ページ番号、日付、ロゴ、タイトル、ファイル名、作成者名など、動的な関数や静的なテキストが含まれます。

フリーフォーム・グリッド 動的計算のために、複数のソースからのデータを提示、入力、および統合するためのオブジェクトです。

フリーフォーム・レポート作成 ワークシートに次元メンバーまたはレポート・スクリプト・コマンドを入力することにより、レポートを作成することを指します。

フレーム デスクトップ上の領域です。ナビゲーション・フレームとワークスペース・フレームが2つの主要な領域となります。

フロー勘定科目 期別と年次累計の符号なしの値を保管する勘定科目です。

ブック 1)Financial Reporting では、類似するドキュメントのグループを含むコンテナです。ブックには、次元セクションまたは次元の変更が指定されていることがあります;2)Data Relationship Management では、1つのグループとして実行できるエクスポートの集合です。エクスポート結果は、1つにまとめることも、別々に出力することもできます。

ブックの POV ブックが実行される次元のメンバーです。

ブックマーク ユーザー個人のページに表示されるレポート・ドキュメントまたは Web サイトへのリンクです。ブックマークには、マイ・ブックマークとイメージ・ブックマークのタイプがあります。

ブロック プライマリ・ストレージ・ユニットです。多次元配列であり、すべての密次元のセルを表します。

ブロックされた勘定科目 手動で入力する必要があるために連結ファイルの計算に含めない勘定科目です。

ブロック・ストレージ・データベース 疎次元に定義されたデータ値の密度に基づいてデータを分類および保管する、Essbase のデータベース・ストレージ・モデルです。データ値はブロック単位で保管され、ブロックは値を含む疎次元メンバーについてのみ存在します。

ブロードキャスト・メッセージ Planning アプリケーションにログオンしているユーザーに対して管理者が送信する単純なテキスト・メッセージです。メッセージには、システムの可用性、アプリケーション・リフレッシュの通知、アプリケーションのバックアップなどの詳細情報が表示されます。

分離レベル データベース操作のロックとコミットの動作選択肢は:コミット・アクセスまたはアンコミット・アクセス。

プライマリ・メジャー 企業および事業のニーズにとって重要な、優先度の高いメジャーです。コンテンツ・フレームに表示されます。

プランナ データの入力と送信、他のプランナが作成したレポートの使用、ビジネス・ルールの実行、タスク・リストの使用、電子メール通知の使用、および Smart View の使用が可能です。プランナは、大多数のユーザーから構成されます。

プランニング・ユニット シナリオ、バージョン、およびエンティティの交差におけるデータ・スライスです。プラン・データの準備、確認、注釈付け、および承認のための基本単位です。

プレゼンテーション Web Analysis ドキュメントのプレイリストです。レポートの分類、整理、並べ替え、配布、および確認を行うことができます。リポジット内のレポートを参照するポイントを含みます。

プロキシ・サーバー セキュリティを保証するために、ワークステーション・ユーザーとインターネットの間で仲介を行うサーバーです。

プロジェクト 実装でグループ化された Oracle Hyperion 製品のインスタンスです。たとえば、Planning プロジェクトには Planning アプリケーション、Essbase キューブ、Financial Reporting サーバー・インスタンスが含まれることがあります。

プロセス監視レポート FDM データ変換プロセスにおける、場所とその位置のリストです。プロセス監視レポートを使用して、決算手続のステータスを監視できます。レポートにはタイム・スタンプが付けられるので、時間データがロードされた場所を判別するために使用できます。

プロット領域 X 軸、Y 軸、および Z 軸で囲まれている領域です。円グラフの場合は、その周りに表示される長方形の領域です。

プロビジョニング ユーザーおよびグループに対して、リソースへのアクセス権を付与するプロセスです。

並列エクスポート Essbase データを複数のファイルにエクスポートする機能です。並列エクスポートは、1つのファイルにエクスポートした場合に比べて時間を短縮できます。また、1つのデータ・ファイルでサイズが大きくなりすぎた場合の、オペレーティング・システムでの操作上の問題を解決できます。

並列計算 計算オプションの1つです。Essbase では計算がタスクに分割され、一部のタスクは同時に計算されます。

並列データ・ロード Essbase で、複数プロセスのスレッドによりデータ・ロードのステージを同時に実行することを指します。

変換 1)アプリケーションの移行後も移行先の環境で正しく機能するように、アーティファクトを変換する機能です; 2)データ・マイニングでは、キューブおよびアルゴリズムのセルの間で(双方向に)流れるデータの変更を指します。

変換先通貨 残高の変換後の通貨です。為替レートを入力して、変換元通貨から変換先通貨に変換します。たとえばユーロから米ドルに変換する場合、変換先の通貨は米ドルです。

変換元通貨 為替レートを使用して変換先通貨に変換される前の、値の元の通貨です。

「変更済」ステータス エンティティのデータが変更されたことを示す集計ステータスです。

別名テーブル メンバーの代替名を含むテーブルです。

ページ グリッドまたはテーブルでの情報表示の一種です。しばしばZ軸により示されます。ページには、1つのフィールドからのデータ、計算により得られるデータ、またはテキストを含めることができます。

ページ・ファイル Essbase のデータ・ファイルです。

ページ見出し レポートの現在のページで表示されているメンバーをリストした、レポート見出しの一種です。ページ上のすべてのデータ値には、ページ見出し内のメンバーが共通属性として適用されています。

ページ・メンバー ページ軸を判別するメンバーです。

保管階層 集約ストレージ・データベースのアウトラインのみで使用されます。アウトラインの構造に従ってメンバーが集約される階層を指します。保管階層のメンバーには、式を含められないなどの一定の制限があります。

ホスト アプリケーションとサービスがインストールされているサーバーです。

ホスト・プロパティ ホストに関係するプロパティです。ホストに複数の Oracle EPM ホームが含まれる場合は、いずれかの Oracle EPM ホームに関するプロパティとなります。

保存された仮定 ビジネス上の主要な計算を推進するための、Planning でのユーザー定義の仮定です(事業所の床面積 1 平方フィート当たりのコストなど)。

マイ Workspace ページ ユーザーが作成するカスタマイズ可能な Workspace ページです。マイ Workspace ページには、ユーザーがリポジトリを参照することなく 1つの場所から簡単にアクセスできるように特別なマークが付いています。

マイニング属性 データ・マイニングにおいて、一連のデータを分析する際の係数として使用する値のクラスです。

マスター・データ・モデル 複数のクエリーによりソースとして参照される独立するデータ・モデルです。このモデルが使用される場合は、「クエリー」セクションのコンテンツ・ペインに「ロック済データ・モデル」と表示されます。データ・モデルは「データ・モデル」セクションに表示されるマスター・データ・モデルにリンクされています(管理者によって非表示になっていることがあります)。

マップ・ナビゲータ 戦略、責任、および因果関係の各マップに現在の位置を示す機能です。赤色のアウトラインで示されます。

マップ・ファイル 外部データベースとの間でのデータの送信や取得のための定義を保管するファイルです。マップ・ファイルの拡張子は、データ送信用が.mps、データ取得用が.mpr となります。

マルチロード 複数の期間、カテゴリ、および場所を同時にロードすることを可能にする FDM の機能です。

マージ データ・ロード・オプションの1つです。データ・ロード・ファイルで指定された勘定科目の値のみを消去し、データ・ロード・ファイルの値で置換します。

密次元 ブロック・ストレージ・データベースでは、次元メンバーのすべての組合せについてデータを含んでいる可能性があります。たとえば、時間次元はしばしば密ですが、これは時間次元がすべてのメンバーのあらゆる組合せを含んでいる可能性があるからです。「疎次元」と対比してください。

ミドルウェア・ホーム Oracle WebLogic Server ホームを含み、さらに EPM Oracle ホームやその他の Oracle ホームも含むことができるディレクトリです。ミドルウェア・ホームは、ローカル・ファイル・システム、または NFS を介してアクセス可能なリモート共有ディスク上に配置できます。

ミニスキーマ データ・ソースからのテーブルのサブセットをグラフィカルに示したものです。データ・モデリングのコンテキストを表します。

ミニレポート レポートのコンポーネントの 1 つです。レイアウト、コンテンツ、ハイパーリンク、およびレポートのロード用の 1 つ以上のクエリーを含みます。各レポートには、1 つ以上のミニレポートを含めることができます。

耳折れ 折り曲げられたページの角です。チャートのヘッダー領域の右上の隅に表示されます。

メジャー OLAP データベースのキューブに含まれる数値で、分析に使用されます。メジャーには、利益幅、売上原価、売上数量、予算などがあります。「ファクト・テーブル」も参照してください。

メタアウトライン Essbase Integration Services における、OLAP モデルから Essbase アウトラインを作成するための構造とルールを含んでいるテンプレートです。

メタデータ データベースに保管された、またはアプリケーションにより使用されるデータのプロパティと属性を定義および説明するデータ・セットです。メタデータには、次元名、メンバー名、プロパティ、期間、およびセキュリティなどが含まれます。

メタデータ・セキュリティ ユーザーにより特定のアウトライン・メンバーへのアクセスを制限するための、メンバー・レベルのセキュリティ・セットです。

メタデータのサンプリング ドリルダウン操作で次元に含まれるメンバーのサンプルを取得するプロセスです。

メタデータ要素 データ・ソースから算出されるメタデータ、および Essbase Studio で使用するために保管され、カタログが作成されるおよびその他のメタデータです。

メンバー 次元内の個別のコンポーネントです。メンバーにより、類似する単位の集まりが個別に特定および区別されます。たとえば、時間次元には Jan、Feb、および Qtr1 などのメンバーが含まれることがあります。

メンバー選択レポート・コマンド 兄弟、世代、レベルなどのアウトラインの関係に基づいて、メンバーの範囲を選択するレポート・ライター・コマンドの一種です。

メンバー専用レポート・コマンド レポート・ライターのフォーマット・コマンドの 1 つです。レポート・スクリプトで現れると実行されます。このコマンドは関連するメンバーにのみ影響し、メンバーを処理する前にフォーマット・コマンドを実行します。

メンバー・リスト 次元のメンバー、関数、他のメンバー・リストを示す名前付きのグループです。システムまたはユーザーにより定義されます。

メンバー・ロード Essbase Integration Services における、次元およびメンバーを(データなしに)Essbase アウトラインに追加するプロセスです。

目標 指定された期間(日、四半期など)についてメジャーに期待される結果です。

持株会社 法的エンティティ・グループの一部であるエンティティです。グループ内のすべてのエンティティに対して直接的または間接的に投資しています。

モデル 1)データ・マイニングで、アルゴリズムにより検査されたデータに関する情報の集合です。より広範なデータ・セットにモデルを適用することにより、データに関する有用な情報を生成できます; 2)アプリケーション固有の方法で示したデータが含まれるファイルまたはコンテンツの文字列です。モデルは Shared Services により管理される基本データであり、次元と非次元のアプリケーション・オブジェクトという 2 つの主要なタイプがあります; 3)Business Modeling で、検査対象の領域からの業務および財務上のフローを示し、また計算するために接続されたボックス・ネットワークです。

役割 リソースへのアクセス権をユーザーおよびグループに付与する際に使用される手段です。

ユーザー定義属性(UDA) アウトラインのメンバーに関連付けられ、メンバーの特性を説明する属性です。UDAを使用すると、指定された UDA が関連付けられているメンバーのリストが戻されます。

ユーザー定義メンバー・リスト ユーザー定義による、特定の次元に含まれるメンバーの静的なセットです。

ユーザー・ディレクトリ ユーザーおよびグループの情報を集中管理する場所です。リポジトリまたはプロバイダとも呼ばれます。一般的なユーザー・ディレクトリとして、Oracle Internet Directory (OID)、Microsoft Active Directory (MSAD)、Sun Java System Directory Server などがあります。

ユーザー変数 ユーザーのメンバー選択に基づいてデータ・フォームを動的に配置し、指定されたエンティティのみを表示する変数です。たとえば、Department というユーザー変数を使用すると、特定の部署および従業員を表示できます。

要約チャート 「調査」セクションで、同じ列内で下に表示される詳細チャートをロール・アップし、各チャート列最上位の要約レベルにメトリックを描画するチャートです。

ライトバック 取得を行うスプレッドシートなどのクライアントが、データベースの値を更新する機能です。

ライフサイクル管理 製品環境間で、アプリケーション、リポジトリまたは個別のアーティファクトを移行するプロセスです。

ライン・アイテムの詳細 勘定科目で最も下位の詳細レベルです。

リソース システムにより管理されるオブジェクトまたはサービスです(役割、ユーザー、グループ、ファイル、ジョブなど)。

リポジトリ ビューおよびクエリーに使用するためのメタデータ、フォーマットおよび注釈の情報を保管する場所です。

領域 メンバーおよび値の定義済みのセットであり、パーティションを構成します。

履歴平均 多数の履歴期間にわたる勘定科目の平均です。

リレーショナル・データベース 関連する 2 次元テーブルにデータを保管するデータベースです。「多次元データベース」と対比してください。

リンク 1)リポジトリ・オブジェクトへの参照です。リンクはフォルダ、ファイル、ショートカットなどの参照に使用できます;2)タスクフローで、あるステージのアクティビティが終了して次のアクティビティが開始するポイントです。

リンク条件 タスクフローのステージを順序付けるためにタスクフロー・エンジンにより評価される論理式です。

リンク・データ・モデル リポジトリのマスター・コピーにリンクされたドキュメントです。

リンク・パーティション データ・セルを使用して 2 つのデータベースをリンクするための共有パーティションです。ワークシートのリンク・セルをクリックすると、リンク・データベースの次元を示す新規シートが開きます。これにより、表示される次元をドリルダウンできます。

リンク・レポート・オブジェクト(LRO) セル・ノート、URL、テキスト、オーディオ、映像、画像を含むファイルなどの外部ファイルへのセルベースのリンクです。Financial Reporting では、Essbase LRO 向けにサポートされるのはセル・ノートのみです。「ローカル・レポート・オブジェクト」と対比してください。

隣接する四角形 Interactive Reporting ドキュメントのセクションを個人用ページに埋め込む場合に、Interactive Reporting ドキュメントのコンテンツをカプセル化する必須のパラメータです。高さと幅を表すピクセル、または 1 ページ当たりの行数により指定されます。

レイアウト領域 コンテンツの配置が可能な Workspace ページの領域です。

例外 事前定義済みの条件を満たす値です。フォーマット・インディケータを定義したり、例外が生成されたときに登録ユーザーに通知したりできます。

レイヤー 1)階層構造内で横並びにメンバーを含む場所です。世代(上から下へ)またはレベル(下から上へ)により指定されます。2)他のオブジェクトに対して相対的なオブジェクトの場所です。たとえば、Sample Basic データベースでは Qtr1 と Qtr4 は同じ年に含まれるので、世代が同一であることとなります。しかし、不均衡階層を含むデータベースの場合、Qtr1 と Qtr4 は同一世代であっても同じレイヤーに位置しないことがあります。

レコード データベースで、1つの完全な入力項目を形成するフィールドのグループです。たとえば、顧客レコードには、名前、住所、電話番号、および販売データのフィールドが含まれることがあります。

列 Data Relationship Management での、インポート・ソース、またはクエリー、比較、検証またはエクスポートの結果に関連付けられたデータ・フィールドです。

レベル 階層ツリー構造において、データベース・メンバーの関係を定義するレイヤーです。レベルは一番下の次元メンバー(レベル 0)から上位の親メンバーへと並べられます。

レベル 0 のブロック 疎のレベル 0 メンバーの組合せに使用されるデータ・ブロックです。

レベル 0 のメンバー 子の存在しないメンバーです。

レポート・エクストラクタ スクリプトの実行時に、Essbase データベースからのレポート・データを取得する Essbase コンポーネントです。

レポート・オブジェクト レポートの設計において、テキスト・ボックス、グリッド、イメージ、チャートなどの動作や外観を定義するプロパティを持つ基本要素です。

レポート・スクリプト 1つ以上の運用レポートを生成する、Essbase レポート・ライター・コマンドを格納したテキスト・ファイルです。

レポートの通貨 財務諸表を準備するために使用される通貨です。現地通貨からレポートの通貨に変換されます。

レポート・ビューア レポート・スクリプトの実行後に完全なレポートを表示する Essbase コンポーネントです。

連結 従属するエンティティからのデータを親エンティティに集約するプロセスです。たとえば、次元 Year に Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 というメンバーが含まれている場合、この連結は Year になります。

連結比率 親に連結された子の値の割合です。

連結ファイル(*.cns) 連結プロセスでチャートまたはツリー・ビューを使用して Strategic Finance ファイルを追加、削除、移動するためのグラフィカル・インタフェースです。連結ファイルを使用して、連結を定義したり変更したりすることも可能です。

連結ファイル(親) 事業部門のすべてのファイルが連結されたファイルです。連結の定義を含みます。

連結ルール 階層のノードを連結する際に実行されるルールです。親の残高が正しく連結されるように、顧客固有の適切な式を含めることができます。消去プロセスは、このルール内でコントロールできません。

ログ・アナライザ Essbase ログのフィルタ、検索、および分析を行うための Administration Services の機能です。

ロケーション別名 データ・ソースを特定する記述子です。ロケーション別名により、サーバー、アプリケーション、データベース、ユーザー名、およびパスワードが指定されます。ロケーション別名は、DBA のデータベース・レベルで管理サービス・コンソール、ESSCMD、または API を使用して設定されます。

ロケール コンピュータで使用される言語、通貨および日付のフォーマット、データのソート順、および文字セットのエンコード方式を指定するコンピュータ設定です。Essbase ではエンコード方式のみが使用されます。「エンコード方式」、「ESSLANG」も参照してください。

ロケール・ヘッダー・レコード スクリプトなど、一部の非 Unicode でエンコードされたテキスト・ファイルの先頭で、エンコード・ロケールを特定するテキスト・レコードです。

ロック済 ユーザーやプロセスがデータを変更するのを防ぐために、ユーザーが呼び出すプロセスです。

「ロック済」ステータス 集計ステータスの 1 つです。変更できないデータがエンティティに含まれていることを示します。

ロック済データ・モデル ユーザーが変更できないデータ・モデルです。

論理 Web アプリケーション Web アプリケーションの内部ホスト名、ポートおよびコンテキストの識別に使用される別名参照を指します。クラスタ環境または高可用性環境では、分散されたコンポーネントに対する単一の内部参照を指定する別名です。EPM System では、クラスタ化されていない論理 Web アプリケーションは、デフォルトで Web アプリケーションを実行する物理ホストとなります。

論理グループ FDM で、ソース・ファイルが FDM にロードされた後に生成される 1 つ以上の論理勘定です。論理勘定はソース・データから導き出される計算勘定です。

ローカル結果 データ・モデルのクエリー結果です。ローカルの結合で結果を使用する場合は、結果をデータ・モデルにドラッグして挿入できます。ローカル結果を要求すると、カタログに表示されます。

ローカル・レポート・オブジェクト エクスプローラで Financial Reporting レポート・オブジェクトにリンクされていないレポート・オブジェクトです。「リンク・レポート・オブジェクト」と対比してください。

ロード・バランサ 要求をクラスタ内の個々のアプリケーション・サーバーに分散するハードウェアまたはソフトウェアであり、システムへの唯一のエントリ・ポイントです。

ロード・バランシング 複数のサーバーに要求を分散することを指します。これによって、エンド・ユーザーのパフォーマンスの最適化を図れます。

ロールアップ 「連結」を参照してください。

ワイルド・カード 検索文字列で単一の文字(?)または文字グループ(*)を示す文字です。

割当て 割当てモデルでのソースと宛先の関連付けです。割り当てられたコストや収益のフローの方向を制御します。

割当てのトレース 財務データのフローに対する視覚的な追跡を可能にする Profitability の機能です。この追跡は単一の交差から、モデル内の前方または後方に実行できます。

ワークフロー FDM で開始から終了までデータを処理する必要のあるステップです。ワークフローは、インポート(GL ファイルからのデータ・ロード)、検証(すべてのメンバーが有効なアカウントにマッピングされていることの確認)、エクスポート(マッピングされたメンバーのターゲット・アプリケーションへのロード)、およびチェック(ユーザー定義の検証ルールを使用してデータを処理することにより、データの精度を確認)から構成されます。

ワークブック 多数のワークシートを含むスプレッドシート・ファイル全体です。

索引

A - Z

EPM Workspace

単一インスタンス, 25

Firefox

ステータス・バー, 11

Oracle BI EE, 47

BI インタラクティブ・ダッシュボード, 48

BI カタログ, 48

BI ホーム, 48

アクセス, 47

インタラクティブ・ダッシュボード, 48

プリファレンスの設定, 49

ホーム・ページ, 48

Oracle User Productivity Kit (UPK)

使用, 30

Smart View、Microsoft Office での使用方法, 24

URL パラメータ

multi_process, 26

Workspace

Oracle BI EE, 13

PDF レポートの表示, 10

アイテム, 11

アイテムのアクセス, 14

アイテムの使用方法, 13

カスタマイズ, 26

機能, 12

基本タスク, 12

タスクの開始, 17

ドキュメントの作成, 17, 18

配置タスク, 11

プリファレンスの設定, 17

モジュール・タスク, 14

ユーザー・インタフェース, 14

ユーザー・タイプおよびタスク, 14

ログオン, 16

Workspace ページ

マイ Workspace ページまたは共有 Workspace ページ, 11

あ行

アイテムを開く、使用方法, 22

エクスプローラの注釈, 12

お気に入り

ドキュメントの削除, 20

ドキュメントの追加, 20

お気に入りからのドキュメントの削除, 20

お気に入りへのドキュメントの追加, 20

か行

開始ページ

設定, 42

デフォルト, 42

カスタマイズ

ユーザー・インタフェース, 42

カタログ

Oracle BI EE, 21

基本、個人用ページ, 21

個人用ページ、基本, 21

さ行

システム・ツールバー、説明済, 31

「終了」コマンド, 37

スケジュール、使用方法, 22

ステータス・バー

Firefox, 11

た行

タスク、開始, 17

タスクの開始, 17

ツールバー

定義済ボタン, 31

標準, 31

ボタン、定義済, 31

「ツール」メニュー、定義されたコマンド, 39

定義された「ヘルプ」メニュー, 39

デフォルト

設定, 42

電子メール

デフォルト, 42

データソース

ドキュメント用に選択, 18

ドキュメントの印刷, 19

ドキュメントの作成、Workspace, 17, 18

は行

表示

:PDF レポート, 10

「表示」メニュー、定義されたコマンド, 37

標準ツールバー, 31

開く

ドキュメント, 19

ファイルの移動, 19

ファイルのプロパティ, 19

ファイルのプロパティの設定, 19

「ファイル」メニュー、定義されたコマンド,

35

フォルダ・ツリー、定義, 21

プリファレンス

Oracle BI EE, 49

全般, 42

プリファレンスの設定、ユーザー・インタ

フェース, 17

「ヘルプ」メニュー、定義されたコマンド, 39

ま行

メニュー・コマンド, 35

や行

ユーザー・インタフェース

カスタマイズ, 42

定義済, 14

プリファレンスの設定, 17

ユーザー・タイプおよびタスク、ワークスペー

ス, 14

ら行

リポジトリ

概要, 16